

アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議委員

西村 幸夫（國學院大學観光まちづくり学部長・教授）

建島 哲（京都芸術センター館長）

菅谷 富夫（大阪中之島美術館館長）

松岡 恭子（㈱大央代表取締役社長、スピングラス・アーキテクト代表取締役）

河野 まゆ子（㈱JTB総合研究所 執行役員 地域交流共創部長）（敬称略、順不同）

「第5回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

■ 市民意見募集の実施結果について

- ・このプロジェクトは、あまり似たような事例がないので、関心の高さが表れているのか、前向きで熱心な意見が多いように思う。
- ・これまでの議論と大きく異なる意見はない印象。計画完成後は、より多くの人々がこれを知ることのできる工夫をすると良いと思う。
- ・今回の意見募集のように関心が高いなら、これを一過性にするのはもったいなく、今後も事業の進捗を周知する機会があると応援団が増えていくのでは。
- ・本会議で出ていなかったアイデアも多く含まれており、この中からキーワードを抽出して傾向を把握することで、今後の計画の参考になるのではないか。
- ・意見を見ると、レジデンスやトリエンナーレ等、これまでのアジア美術館の活動が評価されていると感じた。これまでの取組みが理解されていることはこの事業の強みだと思う。

■ 基本計画(案)について

（第3章 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針について）

- ・第3章第2節において、アジア美術を楽しむことだけではなく、その広がりや深みの部分をもう少し盛り込んでほしい。美術の向こうにある、アジアの地域の歴史や文化、社会的背景への理解を深められることもアジア美術の特徴であり、そうしたものに触れられる面白さは、この館の本質的な価値であると思う。
- ・アジアという概念は常に流動的で、今も大きく変化しつつある。拡充先の展示スペースが大きくなるのであれば、その流動性や概念の変化を取り入れた様々な企画や、何年かに1回、大規模な展覧会を開催するのもいいと思う。

（第6章 アジア美術館の管理・運営計画について）

- ・第3章で示されているように、アジア美術館の活動には多様な主体が関わるのが重要であり、管理・運営の考え方においても、職員以外の一般の方々が積極的に美術館活動に関わることができる仕組みを作ることを記載する必要があると思う。
- ・開館前からウェブサイトに進捗状況を発信することでワクワク感が増し、そうした発信から人々の関心を引き寄せていくことができるのではないか。市民をどう巻き込んでいくか、開館前からの活動も非常に大事だと思う。ファン層を集めていくために、ワークショップなどで市民に意見を挙げてもらおうと、今回の意見募集とはまた違った意見が出てくるので、効果があると思う。
- ・広報活動の充実とデジタル活用は分けて考えるべきだと思う。広報は、発信だけにとどまらず、美術館のファンとの相互のコミュニケーションの充実といった活動も入ると思う。
- ・現段階からデジタルの活用を意識して、建築、展示、運用の計画を連動させて、議論をしていくべき。様々な展開を想定した高度なデジタル環境を整えることが大事だと思う。

（第7章 事業手法について）

- ・ここで述べるのは事業手法だけではなく、市の姿勢を記載した方が良いと思う。整備面において、民間の知見も大事だが、市の中で土木、建築、公園、教育、文化などの分野に詳しい人材を横断的に集め、プロジェクトチームが形成されるような体制になることを期待したい。これらを踏まえた章題を検討した方がよい。
- ・新築ではなく、前例のない難しい面も考えられる事業で、想像できないような問題が発生する可能性があり、途中で変更ができる、柔軟に対応ができるような仕組みにする必要がある。

市民意見募集の実施結果について

1 意見募集期間

令和8年4月14日(火)～5月14日(木)31日間

2 実施方法

(1) 公表方法

アジア美術館(博多リバレイン7階受付)、情報プラザ(市役所1階)、
情報公開室(市役所2階)、各区役所情報コーナー、入部出張所、西部出張所

(2) 意見提出の方法

郵送、FAX、電子メール、窓口、オンライン(専用ホームページ)

3 意見の提出状況等

(1) 意見件数

49名、延べ150件

(2) 意見への対応

原案修正：4件、原案どおり：40件、記載あり：54件、その他：52件

※詳細は参考資料のとおり

4 意見の概要と対応方針

(1) 総論

意見要旨	意見への対応と考え方
<p>基本計画の内容は素晴らしいと思うので、以下の点を要望して、より一層世界から注目されることを期待している。</p> <p>①所蔵作品を学校や大学等に貸与。 ②アジアの各美術館と連携を深めると良い。 ③企業との協賛でアーティストを表彰。 ④アートを市民活動の柱とする。 ⑤アート体験して友だち作りができる仕掛け。</p>	<p>《その他》 市民の財産である作品の貸与については、保存環境や警備体制の確保といった条件がありますが、頂いた5つの視点は、当館の活動に資するアイデアとして、他のご意見と合わせて総合的に検討させていただきます。</p>
<p>全体として、現状の課題と拡張計画はわかるが、福岡アジア美術館を今後どうしていくべきかという将来的な「計画」には未だ至っていない内容になっている。</p>	<p>《原案どおり》 本計画案は拡充先の枠組みを定めるものであり、ご指摘いただいた点につきましては、別途整理してまいります。</p>

(2) 第1章 アジア美術館の現状と課題

意見要旨	意見への対応と考え方
<p>強みを活かすためにも、トリエンナーレを復活させてはどうか。都市型の芸術祭を定期的に行うことによってこの取り組みの有効性が増したり、市民や観光客の認知も向上するのではないかと考える。</p>	<p>《記載あり》 本編22ページの「企画展示等に関するもの」において、アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、そのあり方を含め、アジアの美術拠点にふさわしい発信を検討してまいります。</p>

意見要旨	意見への対応と考え方
福岡アジア美術館の基本理念は、2004に更新されて以降20年以上に渡り変わっていないが、その間世界は劇的に変容し、アジア美術を取り巻く環境についても大きく変化している。今回の計画を機に、基本理念の見直しを検討してもよいのではないか。	《原案どおり》 基本理念は当館のアイデンティティとして維持し、今回は見直しの対象とはしていません。変容するアジア美術への対応は、拡充先での展示手法や交流事業のアップデートを通じて図ってまいります。
美術交流について、アーティストが作品制作のために街中に出向き、市民との交流を行ったこと、ワークショップも館内だけでなく、学校を含め館の外でも実施していたことは「強み」として強調したほうがよい。	《修正》 ご指摘のとおり、ご趣旨を踏まえ、文言を以下の通り修正しました。(5ページ) <修正前> ・アーティストによるワークショップ <修正後> ・アーティストによる館内外でのワークショップ

(3) 第2章 福岡市における文化芸術振興とミュージアム

意見要旨	意見への対応と考え方
最近の福岡市は、心の豊かさを重視していると感じている。天神は働く人が多いので、美術館で心の安らぎを得られれば良いと思う。	《原案どおり》 アートの魅力等によるWell-beingの向上について記載しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
文化芸術の顔にとどまらず、福岡市の顔となるよう頑張っていたきたい。	《その他》 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

(4) 第3章 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針

意見要旨	意見への対応と考え方
子ども、親子、教育関係者、高齢者、障がいのある方についても受動的な活動を提供するのではなく、能動的に、主体となって活動を作って行けるような場として欲しいと考える。特に子どもについては10年後の文化創造の担い手として、深い関係を築いてもらいたい。	《記載あり》 本編16ページの「これからのアジア美術館が提供するもの」において記載して、社会参加ができる場等と記載してその重要性は認識しており、誰もが主体となって活動していける場となるよう、努めてまいります。
・展示されている国の文化を食から学ぶイベントを開催すると、多様な面でアジアへの理解が深まるのではないかと提案する。 ・東南アジアの食と文化に焦点を当て、回遊性を意識したイベントを長期的目線で開発していけば、街全体が参加できる面白いものができるのではないかと提案する。	《記載あり》 本編25ページの「アジア美術を核とした人々の交流に関するもの」において、アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施を記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
美術はなんとなくハードルが高く感じて美術館に行くこともなかったので、アジア美術と気軽に会える場というコンセプトは良いと感じた。	《その他》 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

(5) 第4章 アジア美術館が担う機能と役割

意見要旨	意見への対応と考え方
段階的な人材育成には時間を要する為、国内外へのネットワーク構築も視野に入れ、他館が行っている海外や外部からの学芸スタッフ受入も必須。	《記載あり》 本編23ページの「調査・研究に関するもの」において、研究者や学芸員の招へいなどを記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
学術的シンポジウムや講演会をライブ配信するなどの広報も必要であり、専門のスタッフも必要。過去のアーティストトークや秘蔵映像のアーカイブ映像の配信も行ってほしい。	《記載あり》 本編50ページの「広報活動の充実・デジタル活用」において、デジタルアーカイブ化について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
現館が拡充先に比べ、新しい目玉（ビジョン）が見えてこない。拡充する天神の施設とどういう連携をするのか、もっと掘り下げてほしい。	《原案どおり》 いただいたご意見を参考にして、現館のさらなる魅力向上に向けた具体的な取組みについて、今後検討してまいります。

(6) 第5章 拡充先における施設整備計画

意見要旨	意見への対応と考え方
警固公園との一体整備について、若者やホームレスの方々の居場所を奪わないようにしてほしい。排除の論理はアートとは真逆にある。	《原案どおり》 市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出してまいります。
日光が人に与える影響は大きい。学芸員や事務職員はもとより、看視スタッフやボランティア、アーティストが活動する場所などは日光があたるよう配慮を強く望む。	《記載あり》 本編39ページの「警固公園地下部の考え方」において、採光の工夫について記載してその重要性は認識しており、スタッフやアーティストが健やかに活動できる空間構成を目指し、設計上の配慮に努めてまいります。
地下施設という特性上、豪雨や高潮に備えた止水板や防水扉の設置、重要設備の地上配置など、万全の防災対策を求める。	《記載あり》 本編46ページの「浸水対策の考え方」を記載しており、その重要性は認識しております。
「まとまった広場空間」は、単にフラットな部分だけをさすように見える。周辺のベンチなどの憩いの空間も含めた広場空間とすべき。	《修正》 「まとまった広場空間」については、フラットな部分だけを指すものではございませんので、以下の文言を追記しました。(36ページ) <追記> ※広場空間には周辺のベンチ等も含む
敷地内に車いす利用者用駐車場を整備するとあるが、一般用の駐車場はどうするのか。公園は市民の貴重な憩いのスペースであるため、一般用駐車場は設けないでいただきたい。	《修正》 市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めていることから、以下の文言を追記しました。(46ページ) <追記> ・天神中心部における交通混雑緩和を図る取り組みを踏まえ、一般用の駐車場については、隔地での確保を基本とします。

(7) 第6章 アジア美術館の管理・運営計画

意見要旨	意見への対応と考え方
インフルエンサーだけでなく、一般のファンをアンバサダーとすることで広報に寄与するのではないか。	《記載あり》 本編50ページの「広報活動の充実・デジタル活用」において、SNS等を活用した広報について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
広告収入などで収入確保に努めるとあるが、公共施設の在り方として、来場者や地域の企業、団体、一般市民から広く寄付を募る努力も必要ではないか。	《原案どおり》 多様な財源確保は、健全な運営に不可欠であると認識しており、いただいたご意見を参考に、検討してまいります。
開館時間の拡張について、公園利用時間との連動は理解できるが、夜間の常時開館には慎重に検討を進めるべき。常態化する場合は十分なセキュリティ体制が不可欠。頻度やスペースの限定とそのルール化、監視体制の強化、安全管理の具体化を計画段階で明示すべき。	《記載あり》 本編50ページの「安心安全の確保・効率的運営」において、万全なセキュリティ体制を確保すると記載してその重要性は認識しており、いただいたご意見を踏まえ、監視体制の強化や利用ルールの周知徹底など、検討してまいります。

(8) 第7章 事業手法

意見要旨	意見への対応と考え方
官民の役割分担イメージに民間のノウハウ活用とあるが、民間とはどういった対象なのか、イメージが浮かばない。対象となる民間団体に関して、もうすこし、具体的な例を示してほしい。	《原案どおり》 多種多様なパートナーを想定しており、今後の事業手法の検討の中で具体化してまいります。
事業手法の特徴の書き方を揃えた方がわかりやすくなるのではないか。	《修正》 他の方式の特徴の書き方と合わせ、文言を以下の通り修正しました。(53ページ) <修正前> ・民間事業者が資金を調達し、施設建設後、公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理、運営する方式。 <修正後> ・資金調達は民間が行い、設計、工事、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。

「福岡アジア美術館 施設拡充等基本計画」(原案)に対する市民意見一覧と対応案

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
1	全般	基本計画の内容は素晴らしいと思うので、以下の点を要望して、より一層世界から注目されることを期待している。 ①所蔵作品を学校や大学等に貸与。 ②アジアの各美術館と連携を深めると良い。 ③企業との協賛でアーティストを表彰。 ④アートを市民活動の柱とする。 ⑤アート体験して友だち作りができる仕掛け。	▽その他	市民の財産である作品の貸与については、保存環境や警備体制の確保といった条件がありますが、頂いた5つの視点は、当館の活動に資するアイデアとして、他のご意見と合わせて総合的に検討させていただきます。
2		全体として、現状の課題と拡張計画はわかるが、福岡アジア美術館を今後どうしていくべきかという将来的な「計画」には未だ至っていない内容になっている。	□原案どおり	本計画案は拡充先の枠組みを定めるものであり、ご指摘いただいた点につきましては、別途整理してまいります。
3		原案全体を通して賑わい創出のために警固公園地下の再利用ありきでアジア美術館の拡充先が決められているとしか思えない。長く親しまれてきた福岡アジア美術館の現在地での一体的なりリニューアル及び拡充とさらなる機能充実を望む。	□原案どおり	それぞれの拠点が独自の強みを発揮できるよう、準備を進めてまいります。
4	第1章	大人向けの対話型鑑賞や、アジアの社会問題をアートを通じて学ぶセミナーを定期開催してほしい。	○記載あり	講座やセミナー等のイベントについて記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
5		大型作品やインスタレーションが増加している現状を踏まえ、計画通り4～5m以上の天井高が必要だと思う。	□原案どおり	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
6		福岡アジア美術トリエンナーレは素晴らしかった。アジア美術館の収蔵品の一部を天神の各ビルの一角に貸し出し、スタンプラリー等を行うことで、アートフェスタの賑わいが生まれ市にも企業にもメリットがあり、ヘルスチャレンジにもなると思う。企業から作品貸し出し料を寄付して貰うことで、福岡アジア美術トリエンナーレが復活できればなお嬉しい。	○記載あり	アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、質の高い国際展の実現に向けて、財源確保を含め尽力してまいります。
7		福岡アジア美術館の基本理念は、2004年に更新されて以降20年以上に渡り変わっていないが、その間世界は劇的に変容し、アジア美術を取り巻く環境についても大きく変化している。今回の計画を機に、基本理念の見直しを検討してもよいのではないか。	□原案どおり	基本理念は当館のアイデンティティとして維持し、今回は見直しの対象とはしていません。変容するアジア美術への対応は、拡充先での展示手法や交流事業のアップデートを通じて図ってまいります。
8		2014年以降の停滞(トリエンナーレ中止、広範な現地調査なし、研究者招聘なし)はなぜなのか、そこを踏まえて議論しないと同じことを繰り返してしまう可能性があるのではないか。ここ数年行われているFaNの現状総括も合わせて実施することが必要だと考える。	▽その他	これまでの成果と課題も含め、多角的な検証を行い、持続可能な運営体制の構築に繋げてまいります。
9		強みを活かすためにも、トリエンナーレを復活させてはどうか。都市型の芸術祭を定期的に行うことによってこの取り組みの有効性が増したり、市民や観光客の認知も向上するのではないかと考える。	○記載あり	アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、そのあり方を含め、アジアの美術拠点にふさわしい発信を検討してまいります。
10		現館のスペースが広くはないのは同意するが、理念に直接結びつかない展示が多すぎるのが問題ではないか。新館については、形だけでなく中身についても、いつ行っても充実のコレクションをたくさん見ることができるといのが重要だと考える。	□原案どおり	今回の拡充により、いつ来館しても質の高いアジア美術に触れられるよう、検討を重ねてまいります。
11		「美術交流」について、アーティストが作品制作のために街中に出向き、市民との交流を行ったこと、ワークショップも館内だけでなく、学校を含め館の外でも実施していたことは「強み」として強調したほうがよい。	■修正	ご趣旨を踏まえ、文言を以下の通り修正しました。 <修正前> ・アーティストによるワークショップ <修正後> ・アーティストによる館内外でのワークショップ
12		(6) 当館を取り巻く情勢について、「アジア美術」が一般化し、「福岡アジア美術館」が希少性のみで注目されることはなくなった、ということを付記し、そのうえで、同館の収集作品の幅広さ、レジデンスを中心とした交流事業はあまり例がない、という点を強調したほうがよい。	□原案どおり	本計画案では、情勢の変化を客観的に示すことで、今後の改革の必要性をお示す構成としており、強みの打ち出しについては、今後の具体的な交流事業の展開の中で表現していくことといたします。
13		拡充することが本計画の目的なので、「(7) 施設の拡充について」という項目を一番頭に持っていき、その後に理由をつけた方が納得がいく。	□原案どおり	本計画は、これまでアジア美術にあまり触れてこなかった方にもご理解いただけるように編成しております。
14		スクールプログラムの半数は、現状ボランティアによる対話型鑑賞にて対応。原因としては、教育普及担当専門職員が在籍していないこと。教育普及担当者のネットワーク構築もされていない現状があり、教育普及専門職員の配置は必須。	▽その他	教育現場や参加者との継続的な関係を築くためにも、専門的な知見を持つ体制のあり方について、今後の運営計画において検討してまいります。
15		弱みに高齢者向けプログラムがないとあるが、現在活動しているボランティアは高齢者・後期高齢者もいるため、その活動もプログラムと考えられるのではないか。高齢者だけでなく、学生ボランティアスタッフの登用など、ボランティア活動もプログラムの範疇という項目・範囲も見直しが必要。	▽その他	ボランティア活動の捉え方という大事な視点をいただきましたので、ご意見は今後の活動の参考にさせていただきます。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
16		新施設建設で税金を使う目的は『弱み』を解決することが第一だと考える。本計画は必要性が曖昧なまま無理やり図表と長い文章で紙面を稼いでいるように私は見える。やや不便な大濠公園にある市美術館に比べ現アジア美術館は中洲川端駅直結、天神博多駅間周遊圏内にあるにもかかわらず閑散なこと多々で残念。なので現施設の展示と企画をより充実しより多くの人に来てもらうため、例えばリバレイン壁に大きく『アジア美術館』と案内、企画展の看板を掲げる等、現施設でできることを頑張してほしい。あと再建中の県美術館と合同も考えてはどうか。新施設が必要な理由に納得ができず、計画を止めた方が良いのではないかと。	□原案どおり	拡充先の検討は、現館をさらに活性化させるための機能の分散と拡張も目的としており、ご指摘のような運営の質そのものを高めるための体制整備もセットで進めていくものです。他館との連携も含め、頂いた視点を今後の議論の参考とさせていただきます。
17		市民や観光客にとって、「わざわざ行かなければならない場所」、「気軽な気持ちで日常的に訪れる施設とは認識されていません」という断定の根拠は何か。国際空港から傘をささずに1本の路線で美術館に行けるという、世界的に唯一といえる便利な場所。「わざわざ行かなければならない」のは福岡市美術館の方だったりする。現館の位置的課題はリバレインそのものの運営、経営に原因があると思われる。警固地下館ができた時に、川端館がコレクションや研究の中核として機能するだけでなく、展示機能を有するのならば、もう少し丁寧に位置関係の強み・弱みの分析を行い、それぞれの未来像の強みに繋げた方がよいと思う。	□原案どおり	ご質問の根拠につきましては、令和5年度に実施した調査に基づき、市民の皆様の主観的な認識として議会にも報告させていただいたものです。拡充先と現館が、それぞれの立地上の強みを補完し合えるよう、検討してまいります。
18	第1章	設備の老朽化は、福岡市美術館のように全面的なリニューアルを検討すればよいのではないかと。展示スペース不足、収蔵スペース不足については、リバレインの9階以上の上層階の買収を含めた増床による美術館機能の再編で対応できるのではないかと。将来的に収蔵スペースが不足するなら、他の市有地等に新収蔵庫を別に建設すればよい。認識不足については、広報不足に尽きる。その方法は資金さえあればいくらでも可能。むしろ現在のリバレインビル全体の来館者の落ち込みのほうが気になる。	□原案どおり	ご提案いただいた代替案については、計画策定の過程で比較検討を行ってまいりました。その上で、警固公園地下に既存の躯体を活用して拡充先を展開することとしております。本事業は市議会においても議論され、承認を得た上で進めているものです。いただいたご視点も踏まえつつ、事業を推進してまいります。
19		全面移転なら分かるが、2館に分館よりも現リバレインの上層階への拡大拡充が最も合理的だ。警固公園地下に新館として分離することには反対である。2館体制は結果的にアジア美術館の不均衡と現館の衰退を招く恐れがある。	□原案どおり	現館を疎かにするものではなく、機能を分担させるものでもあり、不均衡が生じないよう、本計画を推進してまいります。
20		現館は、地下鉄中洲川端駅に直結し、福岡空港とJR博多駅からもわずかな時間で「雨にも濡れずに」「大きな荷物を持って気軽にいける」美術館として親しんでいる人が多い。少なくとも国内外のアート関係者、アート好きの観光客には大切に認識されている。市民に認知されていないのは、長年、広報戦略がアップデートされていないことが大きいと考える。拡充施設に関して「気軽に」は良いが、文化教育施設というより、集客施設／イベント施設として構想されているように感じる。	□原案どおり	集客だけでなく、文化教育施設としての本質を大切にしながら、市民に誇りに思ってもらえる美術館づくりに努めてまいります。
21		アジア美術の本質はなんだと考えているのか、しっかり記載がほしい。原本ではこれまでの取組みやアジ美の理念は書かれているが、概要版では省略されすぎていると思う。具体的に、アジア美術のなにかが素晴らしくて拡充すべきなのか伝わらない。それが「イベント施設を作ろうとしているのでは」という印象に繋がる。	□原案どおり	概要版の読みやすさを確保しつつも、拡充の背景にあるアジア美術の素晴らしさという本質的な視点を欠かさないよう、今後の資料作成や説明の場において反映してまいります。
22		開館当初より、展示やレジデンス関連のイベント告知等が非常に遅く、発信の手段や機会もごく限られていたと記憶している。周辺には博多座などの文化施設や大手ホテルが経営されており地下鉄駅の真上という立地にありながら、認知されていなかったのは美術館に独自のコンセプトや戦略的な広報の部署がなかったことも大きな要因ではないかと。施設を支える基本的人材が美術館内不足していた現状があったにも関わらず、施設を拡張した後も高い集客力を担保できる人材が確保できるのか、大きな課題であろうと思う。	○記載あり	広報活動の充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
23	第2章	最近の福岡市は、心の豊かさを重視していると感じている。天神は働く人が多いので、美術館で心の安らぎを得られれば良いと思う。	○記載あり	アートの魅力等によるWell-beingの向上について記載しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
24		文化芸術の顔にとどまらず、福岡市の顔となるよう頑張っていたきたい。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
25		展示されている国の文化を食から学ぶイベントを開催すると、多様な面でアジアへの理解が深まるのではないかと。	○記載あり	アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施を記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
26	第3章	SNSで見る写真につられてくる人が増えるよう、映えるフォトスポットを戦略的に配置してほしい。	○記載あり	SNS等を活用した広報について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
27		アジア各国の踊りのワークショップをアジア美術館に組んで頂き、どんたくに参加することで、福岡の祭り文化の維持に関わって頂けたらと思う。そうすることで、市民のどんたくへの興味や参加も増え、異文化交流のシンボルとして、どんたく港祭りやアジア美術館がともに発展できればと思う。	▽その他	現在もアジア各国の一部のコミュニティがどんたくに参加されており、各コミュニティの自律的な活動を尊重しつつ、アジア美術館がどのように関与できるか、ご意見を今後の参考にさせていただきます。
28		各「実現に向けた取組み」(案)がこれまでアジア美術館が行ってきた取組みとどう違うのかわからない。同館の活動を知る人間にとってはすでにやっている、という印象。アジ美を知る人、知らない人両方が進化したと思える内容が欲しい。	□原案どおり	計画にある取組みの中にはこれまで培ってきた活動も含まれていますが、今回の拡充により、魅力向上に努めてまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
29	第3章	美術館の方向性について、これからの美術を学ぶ学生について必要なものは西洋美術史、日本美術史よりはむしろ「アジア現代美術史」だと考えている。それを日本の地方の美術大学のみならず、アジア各地に広げてゆくミッションがあると考えます。それは、アジアの現代美術史において、作家がその時々に、それぞれの国や地域の歴史や風土、政治などの状況に切実に向き合ってきた結果の芸術表現として試行錯誤してきた態度の痕跡だからです。人間中心の西欧の価値観に対するカウンターとしてあった時代から、大量消費、都市化、環境、災害、デジタル技術の変化において作家がどのような態度を示し、どのような方法で表現を試みてきたのかという深い背景があり、それを深め、探求してゆくミッションがあるように思う。	▽その他	次世代を担う学生やアジア各地の人々の学びの場としての役割について、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
30		子ども、親子、教育関係者、高齢者、障がいのある方についても受動的な活動を提供するところではなく、能動的に、主体となって活動を作って行けるような場として欲しいと考える。特に子どもについては10年後の文化創造の担い手として、深い関係を築いてもらいたい。	○記載あり	これからのアジア美術館が提供するものとして記載してその重要性は認識しており、誰もが主体となって活動していける場となるよう、努めてまいります。
31		現在のアジア美術館でも、集客力アップのため7階を部分的に改装し、キッズスペース、カフェ、ライブラリーにした為、大型作品を展示するスペースが欠乏している。集客を優先するあまり、作品の展示という美術館の根幹の事業が妨げられないような施策が必要と思われる。	▽その他	集客機能と作品展示という美術館の根幹が相反することのないよう、十分な展示・制作空間の確保と適切な機能配置について、慎重に検討を重ねてまいります。
32		建物のコンセプトはまだ先だとは思いますが、他館のようにコンセプトだけでワックするような美術館になれば良いと思う。	▽その他	ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
33		美術はなんとなくハードルが高く感じて、なかなか美術館に行くこともなかったの、アジア美術と気軽に会える場というコンセプトは良いと感じた。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
34	第4章	絵が苦手だったので美術の授業は面白くなかったが、絵を見ることは好きだったので、スクールプログラムを充実させてほしい。	○記載あり	拡充後の活動としてスクールプログラムを記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
35		仕事帰りや宿泊客が夜のアクティビティとして利用できるようにすることで、滞在型観光を促進できるようになるため、週に数日など21時頃までの夜間開館を恒常化することを検討してほしい。	○記載あり	ターゲットに合わせた開館時間について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
36		ボランティアの多国籍化を検討してほしい。	▽その他	多角的な視点からアジアのアートを伝えられるよう、多様な人材が活躍できるコミュニティづくりに努めてまいります。
37		クワイエット・アワーの設定をして、感覚過敏の方や、静かに鑑賞したい方向けに、照明を落とし音を絞る専用時間を設けてほしい。	○記載あり	障がい者の特性にあわせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
38		アジアのDJが、その日の天候や客層に合わせて館内の音をプロデュースするのはどうか。	▽その他	静かに鑑賞したい方への配慮を前提として、特定の空間において、五感を刺激する現代的なアート体験を創出する手法として参考にさせていただきます。
39		アジアが直面する環境問題をテーマにした特別展を定期開催するなど、多角的な面からアジアに興味を持てるようにしてほしい。	▽その他	作品鑑賞を通じてアジアの現実をより身近に感じ、議論のきっかけとなるような展示のあり方を検討してまいります。
40		ワンピルなどの周辺施設や川端通商店街の店舗に作品を展示するなど、街全体を美術館にしてほしい。	○記載あり	周辺施設との連携について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
41		閉館後のスペースをパーティーや企業イベントに貸し出し、収益を次世代育成に充てるといった夜の美術館貸切プランをやってほしい。	○記載あり	ユニークベニュー等について記載してその重要性は認識してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
42		国内では入手困難なアジアの美術雑誌や図録を閲覧可能にしてほしい。	○記載あり	美術図書の閲覧サービスの提供について記載してその重要性は認識してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
43		視覚障がい者や子ども向けに、質感や形を触って理解できる3Dプリントモデルの設置を検討してほしい。	○記載あり	障がい者の特性にあわせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
44		夜の美術館に泊まり込み、アジアの話や聴くなどの非日常体験を提供する美術館での宿泊イベントを検討してほしい。	▽その他	非日常感を楽しんでいただける工夫として、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
45		デジタルを活用し、現地の作家のスタジオをVRで訪問できるコンテンツも面白いと思う。	○記載あり	デジタルの活用について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
46		福岡空港や博多駅と連携し、到着ロビー等であじびで見られる作品をライブモニターで映すと誘客につながると思う。	▽その他	ご意見を踏まえ、効果的な情報発信のあり方について検討してまいります。
47	お土産に普段使いできるアジアのテキスタイルを用いたアパレルを展開すると良い。	○記載あり	アジア美術への興味を深めるきっかけとなるようなグッズの開発について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。	

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
48	第4章	川端、天神、舞鶴と機能が分散することで、スタッフの配置や物流などの運営コストが二重・三重にかかる。効率性の観点から、1か所に集約すべきではないか。	□原案どおり	3拠点を結ぶことは、災害時等のリスク分散のみならず、アートのネットワーク構築による周辺施設等への波及効果も期待できますので、ICT等を活用した人的コストの最適化を図りつつ、事業を進めてまいります。
49		既存の福岡市美術館やアジア美術館の現館がある中で、さらに天神のど真ん中に巨大な地下施設を造る必要性を感じない。ソフト面(展示や教育普及)の充実に予算を回すべきだ。	□原案どおり	今回の拡充は、収蔵スペースの課題を踏まえ、貴重なコレクションを市民に公開し、世界に誇る文化資源として活用するというソフト面に寄与するものです。
50		現館(川端)で定着している市民の文化芸術活動の発表枠を、拡充後も維持してほしい。	○記載あり	文化・芸術活動の発表の場の提供について記載してその重要性は認識しており、市民をはじめ、美術活動者の文化発信ができる場を目指してまいります。
51		天神・川端・舞鶴の3施設を共通のパスポートや回遊バス等で一体的に楽しめる工夫をしてほしい。	▽その他	エリアを回遊しやすくなるソフト・ハード両面での施策について、関係各所と検討を進めてまいります。
52		福岡に住むアジア出身の方々が自分の国の文化に親しみ、交流できるコミュニティの拠点としての役割を期待する。	○記載あり	在福アジア人にとっても第三の居場所となるような場の提供と記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
53		仕事帰りの現役世代や夜間の観光客が立ち寄れるよう、早朝や夜間の開館時間を設定してほしい。	○記載あり	ターゲットに合わせた開館時間について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
54		市民が運営をサポートするボランティア制度を拡充し、シビックプライドを醸成する場にしてほしい。	○記載あり	美術館活動をサポートするボランティアの育成について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
55		九州産業大学では博物館浴の取り組みがなされており、アジア美術館が天神の中心という利便性の高い場所へ移転するのを活かして、社会的処方として患者や高齢者のウェルビーイングに役立てばと思う。	○記載あり	高齢者の特性に合わせたプログラムの充実について記載しておりますが、様々な立場の人に合わせたプログラムも含め、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
56		今後の展示についてコレクション展や自主企画展に言及があるが、貸館は継続するか。近年は貸館企画が多すぎて、特に遠方に住んでいる美術関係者は来訪を敬遠しており、アートシーンにおける福岡アジア美術館の存在感低下にも繋がっている。全くなくすべきとまでは言わないが、バランスを是正すべき。	□原案どおり	アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、展示の質とバランスを適正化してまいります。
57		コレクション展は、どこでの開催を見込んでいるのか。距離は短くても輸送は高リスクのためよく検討してほしいと同時に、新館で開催すべきとも考える。人気を集めるばかりでは美術館が商業施設と同じような扱いになってしまうのではないかと懸念しており、現状どのような方針なのか記載がないのは不安。	○記載あり	拡充先においてアジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるようにすると記載しており、今後具体的に検討してまいります。
58		「在福アジア人にとっても第三の居場所となるような場所の提供」とあるが、具体的にどのような施策を考えているのか。排外主義者の声が大きくなる中、多文化共生の手本となるような場所になることを期待している。	□原案どおり	ご意見を参考にしつつ、第三の居場所の在り方を検討してまいります。
59		拡充先とArtist Café Fukuokaが唐突に出てくるので、関係性がわかりにくい。既存のレジデンス活動や発表がArtist Café Fukuokaでもされているなど、それでは不十分であるなど、もう少し丁寧な説明がほしい。またポンチ絵の中に「マーケティング」の言葉があるが、どのような「マーケティング」なのか説明が欲しい。美術市場に関することであれば、公立館が関わることではないと考える。一方、福岡アジア美術館がどういう層に利用されている/されていないのか、利用されていない層にどうアプローチしていくかなど、利用者についてのマーケティング調査は、専門家を雇ってでも必要だと考える。	□原案どおり	各拠点間の相関図や関係性については、本計画を具現化していく過程において、市民の皆様により分かりやすく丁寧な周知に努めてまいります。また、マーケティングは来館者数増に向けたアプローチを意図したもので、公立館としての公共性を堅持しつつ、専門的な視点を取り入れた戦略的な運営を目指してまいります。
60	川端のアジア美術館はこれまで通りの美術館として重要で、収蔵と研究と展示を主な機能としてアジア美術を学術的に深める活動拠点としてあって欲しいが、新しい警固公園の拡充機能には、ぜひプロジェクト単位の長期、中期、コミッションワークの現場として体験型作品を中心に展開してほしい。建築空間と作家作品が常設化されている空間体験作品の組み込まれた地中美術館や金沢21世紀美術館など、多くの集客を集めているのはご存知の通り。しかもそれを恒久設置だけでなく、スケルトン空間にプロジェクトに合わせて長期(5-10年単位)、中期(1-3年程度)で展開する現場と位置付けるのが良い。その選定などに市民やアジア各地の専門家を巻き込むと面白そう。	▽その他	固定化されないプロジェクト空間の創出や、多様な主体が参画する選定の仕組みについて検討してまいります。	

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
61		舞鶴についてはレジデンス機能を充実させつつ、作家が地元のステーキホルダーと濃密な関係を作って行ける半分開いて半分閉じた環境が必要だと感じる。近隣の福岡市美術館や県立美術館と連携して、美術関係者、あるいは支援者、ネットワーク事業者が濃密な信頼関係を築くことができる拠点としての充実をお願いしたい。いわゆるアーツセンターとしての機能を充実させる場であって欲しくて、アウトリーチ、福祉や医療、環境、防災、教育、都市整備、技術開発、知財創造の拠点として作家や企業、自治体の試行錯誤、社会実験の場としてあって欲しいと思う。その意味でも、子どもと、あるいは障がい者、高齢者などとアーティストとの協働プロジェクトの実践の現場は福岡市内の各所、高齢者施設、病院、学校、福祉施設、そして美術館や文化ホール、劇場や公園、街中の都市施設など様々な現場での実践を期待する。	▽その他	舞鶴の施設が、近隣の施設と連携を図りながら、アーティストと社会の接点となるよういただいた視点を今後の事業展開にいかしてまいります。
62		美術館運営、アートセンター運営、現代美術館運営、スクール事業の運営で一番ネックとなるのは人材確保と予算。その意味でも3箇所の役割分担はしっかりやっておいた方が良いと思う。 川端は調査、研究（近代美術館機能） 警固は観光、プロジェクト実践（現代美術館機能） 舞鶴はアウトリーチ、社会実験（アーツセンター機能） 計画を見ていると展示というフォーマットにこだわっているように見えるが、2000年以降、芸術表現の現場は様々なところに湧き出ており、すでに展示というフォーマットは選択の一つになっていると思う。つまり、現場はネット空間、ゲーム空間、メディア空間であったり、医療、福祉、商業、交通など様々な空間でのプロジェクト型、あるいはフィールドワーク型になっているように感じている。その意味でもアジア美術館の現場は福岡市内、あるいは日本各地、デジタル空間、世界各地と捉えて良いのでは。	▽その他	3拠点の役割分担は今後、検討を進めるとともに、デジタル空間や社会の諸現場を美術館のフィールドと捉える視点は、今後の事業のあり方を検討する上で参考とさせていただきます。
63		ボランティアのすべての活動が警固に移るのか、また一部は現アジ美に残るのか。	▽その他	ボランティア活動につきましては、ご意見を伺いながら、今後詳細を検討してまいります。
64		音声ガイドは、障害のある方の鑑賞には必要かもしれないが、現代美術の作品展示に、パネル、図解を配置するのは、前時代的で作品鑑賞の妨げになる。作品ガイドが捨てられることもあり、配布物のデザイン、クオリティーも検討が必要。展示デザインも含めデザイナーの選定方法にも見直しが必要。	▽その他	幅広い層の方々へ現代美術を楽しんでいただけるよう、情報提示のあり方を検討してまいります。
65	第4章	1999年開館から5回のトリエンナーレ開催だったが、継続ならず、現在に至っている。運営する自治体は変わっておらず、拡充後計画に「継続的開催」と謳っていても、信じてみたい。どの程度の期間を持って、継続的開催というのか、開催頻度や期間、規模も明確に提示してほしい。	▽その他	大規模国際展の開催頻度や規模を含めた持続可能な事業形態をどう担保するかについて、現時点での確約は困難ですが、継続的に開催できるよう、議論してまいります。
66		段階的な人材育成には、時間を要する為、国内外へのネットワーク構築も視野に入れ、他館が行っている海外や外部からの学芸スタッフ受入も必須。	○記載あり	調査・研究に関するものにおいて研究者や学芸員の招へいなどを記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
67		集客ばかりを追わず、福岡で培われた人的資源の活用によるネットワーク再構築、継承からの職員、学芸員、キュレーターの育成も検討してほしい。電子機器、機材を使った過去の作品を展示する場合のテクニカルスタッフの人材育成の必要。作品制作当時の技術的知識を有する技術者からの技術継承、継承者の育成も必要。	○記載あり	地域や内外の研究者や専門家との相互協力的なネットワークの広がりについて記載してその重要性は認識しており、ご意見も参考にしつつ、長期的な運営体制を検討してまいります。
68		美術館がレジデンス拠点としての機能を有するとともに、美術館近郊のオルタナティブスペース、アーティストラウンジ等との連携が必要。アーティストカフェも、レジデンス拠点として存続するのであれば、警固、アーティストカフェの2拠点での連携、役割分担が不明確。アーティスト助成という面では、レジデンス事業だけではなく、拠点がなく活動が出来ないアーティストコレクションへ拠点を提供し、滞在作家との連携の場の提供も、美術館の責務と考えられるのではないかと。自治体が運営する美術館として、集客力だけを追うのではなく、アジアのアート拠点となるべく、役割を果たしてほしい。アジア美術館から遠ざかっていた福岡近郊の作家、以前の滞在作家が自由に交流出来るプラットフォームとしてかつての役割を取り戻してほしい。	▽その他	レジデンス拠点や作家の交流拠点などの機能を有し、福岡がアジアのアートの結節点となるため、役割分担・運営体制を検討してまいります。
69		学術的シンポジウムや講演会をライブ配信などの広報も必要であり、専門のスタッフも必要。過去のアーティストトークや秘蔵映像のアーカイブ映像の配信も行ってほしい。	○記載あり	本編50ページの「広報活動の充実・デジタル活用」において、デジタルアーカイブ化について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
70		すべての人が拡充先と現館の両方を見るわけではなく、おそらく多くの方は拡充先しか見ないとすれば、アジア美術について偏ったイメージや理解をもたらすのではないかと危惧される。また、現館の展示は、作品現物とのつながりを欠いた展示になりやすく、美術館の展示としての魅力を低下させる恐れがある。そこで、原則として展示機能は拡充先に一元化し、一方で現館には、「見える収蔵庫」として収蔵庫の一部に展示機能を持たせることを提案する。展示の仕方を工夫すれば、美術館に新たな魅力を付加することが可能であり、コレクションの有効活用にもつながると考える。	▽その他	コレクションの有効活用と、来館者に偏りのないアジア美術の魅力を伝えるための工夫に関して、いただいたご意見を参考としつつ、具体的な展示のあり方や施設の役割分担を検討してまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
71		「美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として、心地よく過ごせる文化的空間を創出する」という項目について、単に魅力発信のためのイベントやパブリックアートのみを増やすことが目的化しないよう求める。公園との一体化は、運営事業者が民間企業であっても、実際には美術館運営者・学芸員との綿密な連携が不可欠になると考える。そのため、現在の案が、すでに多忙な学芸員に追加的な業務負担を過度に課す構造になっていないか、慎重な検討が必要。 また、Park-PFIやBTO方式で成功とは断定できない事例も参照し、長期的なリスク管理を明確に示すべき。 さらに、屋外展示の構想については、まちづくりや集客の観点のみが先行し、内容が軽薄化することのないよう、学芸員と密接に連携した設計とすべき。	▽その他	事業手法については、現時点で手法を確定させるものではなく、今後、最も適切な手法を模索してまいります。また、学芸員と民間事業者との適切な役割分担等を明確にしております。
72		拡充先に導入する展示機能において「アジア現代美術の傑作」を中心に据えたとあるが、その理由を明確に示す必要があると考える。アジア美術の理解は、話題性の高い現代作品のみでは成立しない。後半に記載されている「作品の特性を活かした質の高い展示空間の確保」という方向性は非常に重要であり、こちらをより具体化すべきと考える。	□原案どおり	ご指摘の通り、話題性を優先するのではなく、作品が持つ本来の価値を損なわない質の高い展示空間の確保が肝要であると認識しております。質の高い展示空間の確保について、今後の設計過程で検討してまいります。
73		現館を「歴史的・文化的背景にフォーカスした展示」とする方針について、結果的に話題性のある展示を拡充先に集中させ、現館が副次的な位置づけに固定される印象を受ける。「拡充先での展示内容を補充する」との記載について、その具体的な意味を明確にする必要がある。現館の展示スペースを単なる補助的な展示場所とするのではなく、両館が対等に機能する設計であることを明確にすべき。	□原案どおり	両館がそれぞれの強みを活かして並び立つような拠点づくりを、ご意見を参考にしつつ、検討してまいります。
74		Artist Cafe Fukuoka について、現在のオープンスペースが本来のアーティスト関係者向けの学びや相談の場として十分に機能しているか、改善の余地があると感じる。アート鑑賞を目的としない外国人利用者が増え、空間の趣旨が曖昧になっている印象があった。改めて用途の明確化と運営方針の整備が必要であると同時に、本計画の主要検討施設である拡充先においても同様の状況にならないよう、慎重な設備計画と運営事業者の選定を行うべき。回遊性向上を目指す場合であっても、アート以外を主目的とする利用に過度に偏らない設計が求められる。	▽その他	Artist Cafe Fukuokaについては、ご指摘いただいた意見を参考に運営を検討するとともに、拡充先においても慎重に検討してまいります。
75	第4章	調査研究について、単発的な招聘にとどまらず、「リサーチャー・イン・レジデンス」や「キュレーター・イン・レジデンス」の制度を体系的に導入することを提案する。現時点でこれらの制度を導入しているのは欧米各国の民間であり、アジア美術館という公共施設での導入を図ることによって、アジア美術の研究・発信が多様化・活性化するだけでなく、国際的にも先駆的なモデルとなる可能性がある。また、アジア全域での新進作家の調査・情報収集について、2010年代以降の新規収蔵状況が見えにくい点からも、調査機能の本格的再始動が必要と考える。レジデンス事業と研究機能を連動させ、継続的な人材受け入れ体制を整備すべき。	□原案どおり	公共施設として先駆的なモデルとなり得る制度設計や、近年の動向を踏まえた調査機能の再構築について、いただいたご意見を参考にしております。
76		にぎわい創出や世界発信を掲げること自体には大変賛同するが、記載の「展示機能と一体的に賑わい・集客を図る取組み」が従来のワークショップやイベント、カフェ連動型施策の延長線にとどまるのであれば、本質的な刷新とは言えないのではないかと考える。そのため、実質的な戦略転換とマーケティングの強化が必要だと考える。また、展示の派手化やSNS活用、コラボ大型イベントが結果として美術館機能の形骸化を引き起こさないよう、慎重なバランスが求められる。	○記載あり	マーケティングの強化の必要性については、第1章に記載してその重要性を認識しているところであり、いただいたご意見も参考にしつつ、質の高い運営とバランスの取れた施策展開を検討してまいります。
77		MICE機能の導入については、既存の市内MICE施設との役割分担を明確に示す必要がある。アジア美術館としてどのような独自性を持たせるのか、具体的説明を求める。企業連携については、収益性の確保が求められる中で、美術館の公共性との両立方法を明確にする必要がある。収益構造とその帰属、公共性の維持について透明性が必要。なお、他都市の事例から、東南アジアの食と文化に焦点を当て、回遊性を意識したイベントを長期的目線で開発していけば、街全体が参加できる面白いものができるのではないかと提案する。在福岡アジア人にとっての「第三の居場所」構想は非常に意義があるため、教育普及の観点と連動し、アートを通じた包摂的なコミュニティ形成として具体化することを期待する。	○記載あり	周辺の施設や企業等と連携について記載し、また、アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施も記載して、これらの重要性は認識しており、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
78		アジア美術をめぐる福岡アジア美術館の先駆性と長年の蓄積が生み出した厚みが現在弱みに転じている要因は、作品収集、調査・研究交流の原点になっていた福岡アジアトリエンナーレが休止していることにある。現コレクションを「世界に唯一」というカードで内外に称揚し続ける予定ならば、トリエンナーレの再開と購入予算(と人員)増が強く望まれ、単なる展覧会活動の一部ではなく、ぜひ柱に据えていただきたい。 また、世界、アジア各国の文化制作や美術館のあり方を分析すれば、とりわけ東アジア、東南アジア、南アジア地域の美術機関の多くがアジア美が築いた礎と功績に今も大きな尊敬の念を持っていることがわかるはず。市場での取引や集客といった金額や人数に換算されること以外の、本質的な実績を評価し、そこを立脚的にするといった文言を加えていただきたい。	□原案どおり	いただいた視点を今後の事業展開や予算、人員配置を検討する際の参考とし、運営のあり方を具体化してまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
79		3拠点での活動分担イメージが漠然としているため、各館の活動内容(特に川端館の)と連携のイメージの文言化を望む。3つに分かれた分館を運営・経営することは並大抵の苦勞ではないと推測する。特に展示機能が複数館に分かれた場合、作品と人に負荷がかかりすぎるのが懸念される。収集保存機能(収蔵庫)を川端館に固定するのならば、コレクションを活用する展覧会のたびに警固館とのあいだを美術専用車両で輸送するコストがかかり、何よりコレクションそのものに移動の負荷とリスクを追わせることになる。美術館スタッフの人員不足も大きなポイント。広範囲のアジア圏をカバーするための基本的な専門人材確保と同時に、3箇所に分かれて連携活動する新生・福岡アジア美術館においては、どのような人材をどのような部署に何人程度配属の計画か。具体的な人数は上げずとも、こういう専門スタッフを適切に配備するといった方向性だけでも書かれることを希望する。	□原案どおり	作品管理の専門職など、バックヤードを支える専門人材の確保・配置、ならびに拠点間連携を円滑にする効率的な運営体制の構築について、いただいた視点を参考とし、具体化してまいります。
80		地下駐車場跡の天井高は1、2階とも各約2.3mしかない。スラブを削除して吹抜けにしても合わせて約5mあるかないか。スケルトンから美術館仕様に改造し、諸設備それに天井と床の設置分を差し引くと、ギャラリースペースの天井高を国際基準の最低5m以上を確実に確保できる保証はあるのか、極めて疑問(4m以上5m未満では話にならない)。それが実現できないのであれば、他の条件がどのようなものであっても「警固公園地下」案には賛成できない。	□原案どおり	いただいた視点を今後の設計等に活かしてまいります。
81		拡充先がメインになるのか。そうであれば「いつ」「予算はいくらぐらい」と明記してほしい。市長の任期と関係があるのか。意見もそれによって変わる。	□原案どおり	時期や予算につきましては、今後の具体的な事業手法の検討を経て定まるものであり、現段階では確定しておらず、今後検討してまいります。
82	第4章	そもそも3拠点にすることが魅力向上になるとはあまり思えない。分館などをもった美術館は軒並み苦戦している。3つの拠点の連携がしっかりできるのか、今回の資料では不安。また、図にある「マーケティング」とは公立のミュージアムに求められる機能か。唐突で、説明が不足していると思う。	□原案どおり	3拠点が有機的に繋がるよう、ご意見を参考に、今後検討を進めてまいります。また、マーケティングは来館者数増に向けたアプローチを意図したもので、公立館としての公共性を堅持しつつ、専門的な視点を取り入れた戦略的な運営を目指してまいります。
83		文面のいたるところに「アジア美術」を見せる、体験するなどの言葉が出てくるが、「アジア美術」の「なに」が他の美術と異なっていて、ここで施設を拡充するべきなのか伝わらない。賑わい、集客をメインとするのならばアジ美だけでなく、福岡市美術館や博物館の所蔵品でもいいのではないかと。福岡アジア美術トリエンナーレの再開、また、非開催の年における大型アートイベントの開催に拡充先が使われるというのであれば、集客の面でも納得がいくし、注目も集まるだろう。ソフト=企画の話が見えず、ハードの話ありきで進んでいることへの不安。具体的にアジ美のこれまでのどこを評価して、これからどういうビジョンで進んでいくのか、明記してほしい。	○記載あり	アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、今後検討してまいります。
84		現館が拡充先に比べ、新しい目玉(ビジョン)が見えてこない。拡充する天神の施設とどう連携をするのか、もっと掘り下げてほしい。	□原案どおり	いただいたご意見を参考にして、現館のさらなる魅力向上に向けた具体的な取組みについて、今後検討してまいります。
85		「レジデンス機能の活動や支援」は現時点の活動と同じであるため、拡充先の警固公園地下ができたときのACFの役割はどうなっていくのか、もう少し踏み込んだ考えが出てきてほしい。北側校舎のスタジオ利用も始まると聞いている。現状は、ACF=アジ美、ではないと思っているが、今後、変化が想定されているのか、ビジョンを知りたい。	□原案どおり	Artist Cafe Fukuokaでは滞在制作機能を強化するための改修工事を実施しており、レジデンス活動の支援体制や連携のあり方について、検討してまいります。
86		拡充先のプランだけが詰め込まれており、現館やACFとの連携のビジョンが具体的になっていない。拠点が3ヶ所になるのは危ういと懸念されるなかで、施設相互の連携をしっかりと考えていかなければ、拡充先だけ注目され、それもイベント的に消費される会場となっていきそうで不安。	○記載あり	3拠点の連携について記載してその重要性は認識しており、互いに魅力を高め合えるような具体的な仕組みづくりについては、これからの事業具体化の中で検討してまいります。
87		記載してあるように、近い将来、教育機関と連携し、アジア美術に関わる教材やプログラムの開発を行い、ボランティアはあくまでも美術館活動をサポートするという形に修正されていくことを願う。	□原案どおり	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
88		Live@Museumに参加し、音楽を楽しんだあとに美術展を見ることで、とても贅沢な時間を過ごせたと感じた。拡充先でもこのようなイベントを開いてもらいたい。	○記載あり	ナイトコンテンツ等について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
89		警固神社に来る観光客の方々をうまく拡充先に誘導できれば良いと思う。	○記載あり	アクセスの考え方を記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
90	第5章	美術作品だけではなく、象徴的なエントランスを目指して訪れる人が来るように頑張っていたいただきたい。	○記載あり	人々を惹きつける高い意匠性を有する施設を整備すると記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
91		外光が入る空間とあるが、作品には日光があたるのは良くないと思われるので、慎重に検討していただきたい。	○記載あり	採光の工夫について記載してその受容性は認識しており、作品に悪影響を与えない環境整備を慎重に検討してまいります。
92		これまでも車が水没したという話は聞いたことがないので大丈夫だとは思いますが、ゲリラ豪雨等にしっかりと備えていただきたい。	○記載あり	浸水対策の考え方を記載してその重要性は認識しており、ご意見は施設拡充等の参考とさせていただきます。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
93		敷地内に車いす使用者用駐車場を整備するとの案が、一般用の駐車場はどうするのか。公園は市民の貴重な憩いのスペースであるため、一般用駐車場は設けないいただきたい。	■修正	市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めていることから、以下の文言を追記しました。 <追記> ・天神中心部における交通混雑緩和を図る取組みを踏まえ、一般用の駐車場については、隔地での確保を基本とします。
94		せっかく公園の地下に造るのなら、美術館からも公園を感じられると良いと感じた。	○記載あり	美術館と公園が互いに連携し、一体的に魅力向上を図っていくと記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
95		拡充先は公共交通機関でアクセスが良好だが、公共交通機関利用時には学童や誘導する教員の負担が大きくなるのではないかと懸念している。また、周辺道路が混雑しており、スクールプログラム等実施時に貸切バスの利用が難しくなるのではないかと懸念もある。	▽その他	バスの乗降場所の確保や来館時の誘導線線の整備など、来館者の安全かつ円滑なアクセスについて検討してまいります。
96		ボランティアの必要人数が増えた場合、補充が可能か心配している。多様な人材が参加できる体制が整っていないため、積極的な関与とサポートをお願いしたい。	○記載あり	美術館活動をサポートするボランティアの育成について記載してその重要性は認識しており、持続可能な美術館運営について検討してまいります。
97		一点の作品と静かに向き合い、瞑想できるような静寂な部屋を設けてほしい。	▽その他	都市の喧騒の中にありながら、静寂の中で作品と対話できる鑑賞環境の整備は、心の豊かさにつながる重要な視点として検討させていただきます。
98		子どもがアジアの色彩や形に触れながら遊べる作家デザインのプレイルームなど、キッズスペースのアート化をはかってほしい。	▽その他	現在もキッズスペースのアート化に取り組んでおりますが、拡充先でもアジアの多様な色彩や造形に幼少期から自然に触れ、感性を育めるようなスペースのあり方を検討してまいります。
99		認知症の方のためのアート対話を行い、作品を媒介に、認知症の方やその家族が交流するケアとしての鑑賞会も意義があると思う。	○記載あり	高齢者の特性に合わせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
100	第5章	中高生が学校帰りに無料で立ち寄り、アートについて語り合える場をつくれれば、将来の担い手の育成につながるのではないかと。	▽その他	放課後の時間帯を活かしたプログラムなどを検討してまいります。
101		企業の経営者や社員向けに、アジアのアートから創造性を学ぶ研修プログラムの提供するのも面白いかもしれない。	○記載あり	講座やセミナー等のイベントについて記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
102		聴覚障害者向けに、QRコード等で即座に手話解説が見られる仕組みを検討してもらいたい。	○記載あり	障がい者の特性にあわせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
103		市内の歴史・自然スポットにアジアの彫刻を点在させるとおもしろいのではないかと。	▽その他	回遊性を高め、都市の魅力向上につながる視点として参考にさせていただきます。
104		新たな施設においても、チケットを買わなくても入れるスペースを広く設けていただきたい。	○記載あり	有料・無料ゾーンの考え方について記載しており、その重要性は認識しております。
105		展示で使用したパネルや資材を廃棄せず、再利用・リサイクルするサステナブルな展示設営を行ってほしい。	▽その他	展示の質を維持しつつ、環境に優しい資材の選定や設営プロセスの見直しを検討してまいります。
106		地下施設という特性上、豪雨や高潮に備えた止水板や防水扉の設置、重要設備の地上配置など、万全の防災対策を求める。	○記載あり	浸水対策の考え方を記載しており、その重要性は認識しております。
107		地下施設であっても、外光を取り入れる工夫や吹き抜け空間を設けることで、明るく開放的な美術館にしてほしい。	○記載あり	外光が入る空間や開かれた空間を設けることを検討しており、その重要性は認識しております。
108		岩田屋や三越、ソリアプラザ等と連携したアートイベントを行い、天神全体の回遊性を高めてほしい。	○記載あり	周辺施設との連携について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
109		伝統楽器からノイズミュージックまで、アジアの音に特化した音響展示室の設置を検討してほしい。	▽その他	静かに鑑賞したい方への配慮を前提としつつ、特定の空間において、五感を刺激する現代的なアート体験を創出する手法として参考にさせていただきます。
110		アーティストが監修し、借りるのが楽しくなるようなデザインによる館内専用ベビーカー・車椅子があると良いと思う。	▽その他	館内移動そのものが一つのアトラクションとなるホスピタリティの形として参考にさせていただきます。
111		コレクション展、学芸員の企画展、貸館企画が共存できる空間構成を望む。	▽その他	アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、展示の質とバランスを適正化してまいります。
112		警固公園との一体整備について、若者やホームレスの方々の居場所を奪わないようにしてほしい。排除の論理はアートとは真逆にある。	□原案どおり	市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出してまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
113		屋外への作品展示について、パーマネント展示は極力行わない方が良い。社会の移り変わりによって人びとのまなざしも変化するため、少なくとも設置見直し可能な仕組みづくりが必要。	▽その他	柔軟に展示の見直しや入れ替えをするなど、持続可能な作品展示を検討してまいります。
114		日光が人に与える影響は大きい。学芸員や事務職員はもとより、監視スタッフやボランティア、アーティストが活動する場所などは日光があたるよう配慮を強く望む。	○記載あり	採光の工夫について記載してその重要性は認識しており、スタッフやアーティストが健やかに活動できる空間構成を目指し、設計上の配慮に努めてまいります。
115		福岡アジア美術館天神拡張については、既存館の機能を単純に複製するのではなく、天神という都市環境と地下空間の特性を活かした、「アジア都市文化の現在進行形」を体験できる拠点として整備することが望ましいと考える。特に、基本計画で示されている「交流」「創造」「市民に開かれた文化拠点」という方針を踏まえ、公開収蔵庫、制作過程を見せる工房、都市文化ライブラリーなどを導入し、「文化が生成される過程」を市民に開く施設とすることで、福岡独自の公共文化拠点形成につながると考える。	□原案どおり	3拠点が連携し、相乗効果を発揮できるように、検討してまいります。
116		天神拡張では、既存館との差別化として、現代アートやインスタレーションに特化した実験的な展示空間の整備が望ましい。特に地下空間の特性を活かし、映像、音響、光、空間演出などを用いた大型インスタレーションや没入型展示を展開することで、福岡独自の文化発信につながると考える。挙げられる。都市と接続した実験的展示空間として構想することが重要である。	□原案どおり	立体やインスタレーションなどの大型作品をダイナミックに展示できる空間を備えた展示室について記載してその重要性は認識しており、ご意見を参考に具体化を図ってまいります。
117		アジア都市文化ライブラリー機能を併設し、雑誌、ポスター、建築、映画、音楽、屋台文化など、アジアの都市文化資料を横断的に収集・公開することが望ましい。また、地下空間だけでなく地上空間も活用し、公開制作、トーク、マーケット、屋台的な仮設空間を展開することで、街との連続性を生み出すことが重要である。提案として、アジア各国の屋台を集めた「屋台マルシェ」の導入も考えられる。展示だけでなく実際に屋台を運用し賑わいを生み出すことで、福岡の路上文化とアジアの都市文化を接続する重要なコンテンツとなり得る。	▽その他	アジアの都市文化を示していくことも重要な活動の一つだと認識しており、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
118	第5章	このままの要件で出してしまうと何ら他の美術館と変わらないコスト高の差別化されない空間しかできないような気がする。川端がそのまま収蔵と研究、研究発表としての展示機能を保持するとすれば、警固はもっと一般に開いた公共空間として、公園の延長の空間として整備し、都市の余白、長期プロジェクトで自立可能な空間が確保できる仕組みを建築要件に入れるとすればいいのになと思う。市民の展示などは90年代に福岡で実践していたミュージアムシティプロジェクトの発想で、デジタルサイネージやヒルボードの作品化、複合施設の中の余白化など都心部全体が市民協働のプロジェクト実践の展示空間になるようになれば都市の独自性と魅力が高まる。そのためにも中途半端な市民ギャラリーなどは作らず、コーディネーターやマーケティング担当を設置する方が重要かと思う。	□原案どおり	マーケティングについては記載してその重要性は認識しております。また、市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出してまいります。
119		「まとまった広場空間」は、単にフラットな部分だけをさすように見える。周辺のベンチなどの憩いの空間も含めた広場空間とすべき。	■修正	「まとまった広場空間」については、フラットな部分だけを指すものではございませんので、以下の文言を追記しました。 <追記> ※広場空間には周辺のベンチ等も含む
120		ボランティア室には、共用のPC、スキャナー、コピー機などを取りそろえ、スムーズで活動しやすい環境を整えていただきたい。	▽その他	ボランティア室の機材等につきましては、ご意見を伺いながら、今後詳細を検討してまいります。
121		周辺施設や企業との連携は重要だが、それが単なるまちづくり施策にまともなよう、アジア美術との出会い、学びに一貫する設計が必要。回遊性向上の主導権がどこにあるのか、また、美術館関係者が行政と民間の間で過度に負担を負う構造にならないかを慎重に検討すべき。他館を参考にしつつ、学芸員のみならずの専門性が十分に尊重される運営体制であることを強く求める。	▽その他	現場の専門性が尊重される運営体制の確立に努めてまいります。
122		エントランス空間に「桧原桜物語」を添えた「進藤一馬元市長像」の配置と「桜の植樹」を提案する。進藤元市長は福岡市美の新設に尽力され、既に市美には像があり、アジアを視野に入れた福岡の文化行政の歩みと静かに繋がっている。桜の存在や季節の変化の中で、静かな時間の流れや空間の奥行きが感じられる場となることを期待する。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
123		福岡の近現代史には多様な背景があり、アジアとの関係を多角的に捉える場である美術館にとって、今後ますます重要な視点になると考える。来館者が多様な視点から歴史や文化を考える契機となるよう、適切な情報提示と表現の工夫がなされることを期待する。本計画が単なる施設整備にとどまらず、市民の記憶、都市の歴史、そしてアジアとの関係性に静かに触れることのできる場として展開されることを願う。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
124		浸水対策の考え方について、美術館の機能について関わったことがある人なら誰しも案ずるところだと思う。ハザードマップを見ても、警固公園は水の影響を受けやすい場所。リスクが高い施設に高名な美術館から重要な作品を借りてきて展示することは、相当ハードルが高くなると思われる。地上に仮の保管庫を作る案が書かれていたが、市博のリニューアルは流れた中、それだけのきちんとした施設にする余裕があるか。貴重な作品の保全や管理にむけ、十分な検討(大幅な企画修正を含めて)をお願いしたい。	○記載あり	浸水対策については、整備計画の項目にも記載してその重要性は認識しており、国内外の地下建築の事例も参考にしつつ、今後の設計過程で検討してまいります。

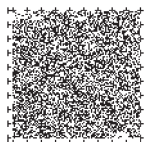
連番	分類	意見要旨	区分	対応案	
125	第6章	警固公園地下駐車場の躯体を再利用することは、環境負荷の低減につながるため、持続可能な開発として評価したい。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	
126		福岡の新たな顔となるよう、地上部分には福岡の独自性とアートを感じさせる象徴的なデザインが確かに重要だと思う。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	
127		感覚過敏の方や鑑賞後に気持ちを落ち着かせるための休息が必要な方が安心して利用できる専用スペースの設置計画を支持する。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	
128		Art Fair Asia Fukuoka等のアートイベントとの連携を強め、作品を買う・支えるという文化の醸成に寄与してほしい。	▽その他	アーティストの活動を持続的に支える仕組みづくりに寄与することは、本市の文化経済の活性化にも繋がると考え、連携のあり方を模索してまいります。	
129		インフルエンサーだけでなく、一般のファンをアンバサダーとすることで広報に寄与するのではないかと。	○記載あり	SNS等を活用した広報について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。	
130		DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、チケット購入のキャッシュレス化や混雑状況の可視化などで利便性を高めてほしい。	○記載あり	デジタルの活用について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。	
131		夜間開館やユニークベニューとしての活用とあるが、過度に商業的にならないことを望む。また、イベントが増えることと関連して、本来業務には当たらない業務により職員の負担が増えることには反対する。	○記載あり	多様な利活用を図るサービスの提供は民間のノウハウを期待できるものと記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。	
132		広告収入などで収入確保に努めるとあるが、公共施設の在り方として、来場者や地域の企業、団体、一般市民から広く寄付を募る努力も必要ではないかと。	□原案どおり	多様な財源確保は、健全な運営に不可欠であると認識しており、いただいたご意見を参考に、検討してまいります。	
133		ここ数年、作品の価格が購入時からこんなに上がったなど金銭的価値に重きを置くようなPRがされているが、美術館という施設がPRすべきはそこではない。	▽その他	美術館の本旨は作品の歴史的・芸術的価値を伝えることにあり、評価額の変化はあくまでその一側面と認識しております。今後はより深く作品の本質や魅力を発信できるよう、PRのあり方を精査してまいります。	
134		広報活動の充実とあるが、外部にPRを依頼する場合、条件や基準は内部で設定されているのか疑問。契約前のリファレンスチェックは怠らないように、また、外部に依頼したSNSのPR広告の効果測定はシビアに行うべきだと考える。	▽その他	広報活動にあたっては、その効果測定も含め、実効性のある広報を進めてまいります。	
135		事業に対してどのような組織体制、人員、専門人材が必要かなど、職員に関わることが全く示されていない。	□原案どおり	本計画案は拡充先の枠組みを定めるものであり、具体的な組織構成や専門人材の確保については、事業の具体化に合わせ、実現可能な体制を別途検討してまいります。	
136		開館時間の拡張について、公園利用時間との連動は理解できるが、夜間の常時開館には慎重に検討を進めるべき。常態化する場合は十分なセキュリティ体制が不可欠。頻度やスペースの限定とそのルール化、監視体制の強化、安全管理の具体化を計画段階で明示すべき。	○記載あり	万全なセキュリティ体制を確保すると記載してその重要性は認識しており、いただいたご意見を踏まえ、監視体制の強化や利用ルールの周知徹底など、検討してまいります。	
137		第7章	事業手法の特徴の書き方を揃えた方がわかりやすくなるのではないかと。	■修正	他の方式の特徴の書き方と合わせ、文言を以下の通り修正しました。 <修正前> ・民間事業者が資金を調達し、施設建設後、公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理、運営する方式。 <修正後> ・資金調達は民間が行い、設計、工事、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。
138			美術館のボランティアは他の一般的な公的機関のボランティアとは違い、交通費もなく全くの無償で行っているため、ボランティアが役割分担の中の収益を得ている民間のカテゴリーには入らないということも、ご承知おきいただきたい。	▽その他	ご指摘の点は改めて受け止め、ボランティア活動の充実と適正化に向けて、努めてまいります。
139			過去に行ったPFI事業の中には、効率的な運営がなされていないと思われるものがあることから、PFI方式は止めてほしい。市予算会議会でしっかり事業計画を、必要性をゼロベースから考えることも含め、資金繰りも議論する方がよいと考える。	○記載あり	事業手法については、現時点で手法を確定させるのではなく、今後、最も適切な手法を模索してまいります。
140			官民の役割分担イメージに民間のノウハウ活用とあるが、民間とはどういった対象なのか、イメージが浮かばない。対象となる民間団体に関して、もうすこし、具体的な例を示してほしい。	□原案どおり	多種多様なパートナーを想定しており、今後の事業手法の検討の中で具体化してまいります。
141	接遇サービスや集客促進において、民間の創意工夫を積極的に取り入れる事業手法を支持する。		▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
142	その他	天神地区の駐車場容量が減り、車で行くことが不便になるが、その対策はどうするのか。ロンドン等では市中心部に乗り入れる車を減らすため入域料金等が設定されている一方、福岡市では市中心部に入る車を減らす施策は特に行われていないと思う。車社会変革のため駐車場を廃止し、その場所を別の用途に使用するという意味があるが、本計画案は車社会変革とは関係ないようで、ちぐはぐでいきあたりばつりに見える。警固公園地下駐車場を、現状のまま存続して欲しい。	□原案どおり	福岡市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めており、当該駐車場は、NEXCO西日本が設備の老朽化などから安定的な事業継続が困難であったことから、令和8年3月31日に廃止されております。
143		本計画の出所はどこか。市長か、あるいは地元経済界か。	▽その他	本計画は、アジア美術館魅力向上検討担当が編集発行しております。
144		昨今、全国で過去に建設された美術館や公共施設の老朽化、維持が困難になる問題がたくさんある。警固公園地下駐車場の売り上げは多かっと思われ、施設の維持にはあまり困らなかつたと推定される。一方、美術館を作り、入場券を購入する来館者が少ないと、少なくとも駐車場を上回る売り上げが出ないと、施設の維持が難しくなると予想される。現アジア美術館の年間利用者数と収益金額はどれくらいか。現館の計画時に目標とされた年間利用者数と収益金額はどれくらいか。計画案に示された新美術館の年間利用者数目標と収益金額目標はどれくらいか？	▽その他	福岡市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めており、当該駐車場は、NEXCO西日本が設備の老朽化などから安定的な事業継続が困難であったことから、令和8年3月31日に廃止されております。現時点での実績値は、年間入館者数が平成11年の約25.8万人から約38万人に増加しており、歳入は約4千万円(令和6年度)です。今後の目標については、市美術館などを参考にしつつ、基本設計等の進捗に伴い、具体化してまいります。
145		計画案には、金額が全く記載されておらず、そもそも、計画案の賛否を考慮の上で最も基礎となる情報が欠落している。工事の入札にもかかわることであり、公表できない部分もあるだろうが、金額は最重要。事業の予算はどのくらいか。	□原案どおり	予算につきましては、今後の具体的な事業手法の検討を経て定まるものであり、現段階では確定しておらず、今後検討してまいります。
146		昨今、物価上昇で、工事金額も上昇している。建設工事が遅れたり先延ばしになったりすれば、工事金額が増加することが予想される。工事～完成～開館までの予定日程を教えてください。	□原案どおり	予定日程につきましては、今後の具体的な事業手法の検討を経て定まるものであり、現段階では確定しておらず、今後検討してまいります。
147		現アジア美術館も何らかの改修工事が行われると推定され、無料では済まない。また、集客に関しては、警固公園地下部が多くなると考えられる。現アジア美術館は来客がなくなり、収益を生まないとすると、維持管理費の原資はどこから出るのか。	○記載あり	持続可能で自立性の高い運営体制について記載してその重要性は認識しており、今後検討してまいります。
148		リバレインの拡充の検討がなぜ「低層階」だけなのか。9階以上の上層階が、買収を含めなぜ「選定の前提条件」に入っていないのか。上層階を念頭にした現在地での拡充も様々な角度から専門家を交え時間をかけて検討すべきではないのか。警固公園地下駐車場跡の再利用を優先した公園自体の再開発と、アジア美術館の拡充問題を強引に結び付ける必要はない。	○記載あり	施設の課題において、複合ビルの上層階に位置していることで、気軽に立ち寄り場所と認識されていないことを記載しております。
149		展示される内容が同じであれば、施設の魅力だけを向上させても、来館者の数は変わらない。天神に新しい施設ができ、現在のアジア美術館の同様の展示内容であれば、現在の川端の来館者が減り、地理的な利便性の高い天神の新しい施設に集中することが予想される。魅力向上ということであれば、多くの人々が観たいと思う作品を揃える施策が必要ではないかと考える。	○記載あり	アジア近現代の美術作品の系統的な収集について記載して重要性は認識しており、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
150		若い世代は福岡のアート戦略に大きな期待を持っている。福岡市美術館と福岡アジア美術館が世界に先駆けてアジア美術を調査し、歴史を作った。いまや国内外でアジア美術は注目を集めているが、福岡は2014年以降の福岡アジア美術トリエンナーレ開催が止まったことで、残念ながら2周、3周遅れになっており、もったいない。学芸員たちの知見が、拡充先の案にきちんと応用されていき、世界各地に増えたアジア美術のミュージアムやアート団体と連携し、福岡がそのアジアのアート拠点のひとつとして、ふたたび生き生きと活動することを願っている。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

Fukuoka Asian Art Museum

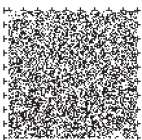
福岡アジア美術館

施設拡充等基本計画（案）



目次

はじめに	1
第1章 アジア美術館の現状と課題	
(1) 概要	2
(2) 基本理念	2
(3) これまでの活動	3
(4) これまでのアジア美術館の活動における強みと弱み	4
(5) 施設の課題	6
(6) 当館を取り巻く情勢	7
(7) 施設の拡充について	8
第2章 福岡市における文化芸術振興とミュージアム	
第1節 福岡市のまちづくりと文化芸術振興	10
(1) 福岡市のまちづくりと文化芸術振興	10
(2) 博物館法等の改正による美術館の役割の変化	12
第2節 福岡市における文化芸術振興とミュージアム	13
第3章 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針	
第1節 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針	14
第2節 これからのアジア美術館の方向性	15
(1) 出会う・気づく - アジア美術と気軽に会う場 -	15
(2) 楽しむ・見つめる - アジア美術を楽しみ、自分や世界を見つめる場 -	16
(3) 伝える・広げる - アジア美術の魅力を発信し、発展に貢献する場 -	16
(4) 創る・挑む - アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場 -	17
第4章 アジア美術館が担う機能と役割	
第1節 アジア美術館の機能分担について	18
第2節 アクセシビリティ	20
第3節 拡充後のアジア美術館の活動	21
(1) 展示	21
(2) 学び・体験	22
(3) 調査研究	23
(4) 収集保存	23
(5) 美術交流 (レジデンス)	24
(6) にぎわい・集客	24
(7) 市民の文化・芸術活動の場	25



第5章 拡充先における施設整備計画

第1節 拡充先の概要	26
(1) 概要・位置と周辺環境	26
(2) 拡充先（警固公園）の特性	28
(3) 土地利用上の法令等の条件	29
(4) 拡充先（警固公園）の既存施設の状況	30
第2節 拡充先における施設整備の基本的な方針	31
(1) まちをつなぎ、人をつなぐ福岡の新たな顔	31
(2) 持続可能で安心、快適な美術館	32
第3節 拡充先の整備計画	33
(1) 地上利用計画	33
(2) 拡充先の機能・諸室	37
(3) 拡充先のゾーニング・動線計画	42
(4) 施設計画の考え方	45

第6章 アジア美術館の管理・運営計画

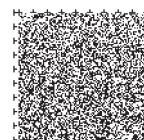
(1) 管理・運営の基本的な方針	48
(2) 拡充先の管理・運営の具体的な考え方	49

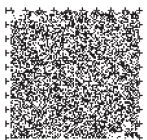
第7章 基本計画の実現に向けた事業手法

(1) 基本的な考え方	52
(2) 設計手法の検討について	53
(3) 事業手法の検討について	53

参考資料	54
------	----

※本計画中の図は、現時点のイメージであり、今後の検討により変更となる場合があります。





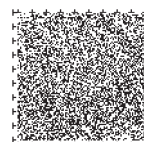
はじめに

福岡アジア美術館(以下「アジア美術館」といいます)は、アジアの近現代美術作品を系統的に収集する世界に唯一の美術館として、1999(平成11)年3月に開館しました。

福岡市とアジア近現代美術との関わりは、アジア美術館の母体である福岡市美術館の開館記念展として実施された「アジア美術展」(第1部:1979(昭和54)年、第2部:1980(昭和55)年)にさかのぼります。福岡市美術館での約20年にわたるアジア近現代美術に関する取組みと、蓄積された特色あるコレクションを引き継ぎ開館したアジア美術館では、展示事業、交流事業、教育普及事業などに加え、アジアの現代美術の動向を紹介する「福岡アジア美術トリエンナーレ」を開催するなど、多彩な事業活動を展開してきました。

これまでの活動によって、当館のコレクションは市民の貴重な財産となっていますが、一方で、開館から25年以上が経過し、設備の老朽化や、展示・収蔵スペース不足、気軽に立ち寄れる場所としての認識不足といった課題が出てきています。このため、アジア美術館では、2023(令和5)年度より魅力向上に向けた検討を進めており、これまでの活動や蓄積を継続し、さらに磨きをかけて魅力向上を図るため、施設拡充を行うこととしました。

本計画は、その実現に向けて、アジア美術館の現状や課題を整理するとともに、施設整備や管理・運営の考え方を取りまとめたものです。



第 1 章 アジア美術館の現状と課題

(1) 概要

名称	福岡アジア美術館
設置者	福岡市長
所在	福岡市博多区下川端町3番1号(博多リバレイン)

参考資料：「アジア美術館の概要」「計画策定のこれまでの経緯」

(2) 基本理念

当館では、現在、以下の4つの基本理念を掲げています。(2004(平成16)年に更新)

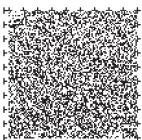
福岡アジア美術館の基本理念

①アジアとの交流拠点、福岡

福岡市は、古代からアジア文化の受容窓口であったという地理的、歴史的な特質をふまえて、長年にわたり、アジアの交流拠点都市としての役割を歴史的に果たしてきました。福岡アジア美術館は、その福岡市のアジアとの交流への先進的な取組みのひとつとして1999年に誕生しました。以降も次のような活動によって、日本をはじめ、アジア、世界からの注目を集めています。

②世界に唯一、アジアの近現代美術の専門館

福岡アジア美術館は、アジアの近現代の美術作品を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館です。それらの作品は、西洋美術の模倣でもなく、伝統の繰り返しでもない、変化しつづけるアジアの「いま」を生きる美術作家が切実なメッセージをこめて作り出した、既製の「美術」の枠をこえていくものです。広範で質の高いアジアの近現代美術作品の展示は、世界のどの美術館とも異なる独自性と魅力を持っています。



③創造・発信する交流の場

福岡アジア美術館は、アジアの美術作家や研究者を招へいし、滞在制作やアジア美術の研究など様々な美術交流を通して、人々がアジアの美術・文化に親しむ場として機能してきました。福岡・日本とアジアが、また市民と美術にたずさわる人々が、たんに出会うだけではなく、互いに理解し、共に創造し発信していくことを目指す交流型の美術館です。

④「まち」の中のライブな美術館

福岡アジア美術館は、福岡と博多の「まち」のエネルギーがうずまく都心にあります。この「まち」に生きる人々が、アジア美術を通してアジアの「いま」へ最短距離でアクセスできる都心型の美術館です。また、アジアの美術作家たちも、「まち」特有の場所や表現方法を活かして、「まち」を生きる人々へとアプローチしていきます。

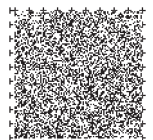
(3) これまでの活動

まず収集については、収集方針[※]に従い、優れた芸術性と独自性をもつ、パキスタン以東、モンゴル以南、インドネシア以北以西のアジア23か国・地域(日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、モンゴル、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、インド、スリランカ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、モルディブ)の近代以降の絵画、彫刻、版画、写真、映像など多様な作品を収集してきました。

※参考 作品の収集方針

福岡アジア美術館では、アジア美術の独自性を示す優れた作品を、近代と現代を中心に系統的に収集するとともに、西洋近代の価値観でつくられた従来の「美術」の枠にとらわれない、アジア美術の独自性や固有の美意識を示す作品を収集し、新たなアジア美術の価値の創造を目指し、下記のような収集方針を設けています。

- 1 アジア美術の近代から現代へ至る流れを系統的に示す作品
- 2 アジアの近現代美術を考える上で重要な、民俗芸術や民族芸術、大衆芸術
- 3 その他、アジアの近現代美術を考える上で重要な、伝統的な美術・工芸



次に、展示については、アジアの近現代美術作品を系統的に紹介する所蔵品展、様々な時代・地域・ジャンルのアジア美術の魅力を紹介する小企画展、アジア近現代美術を中心に、アジアと関連のある幅広い分野の特別企画展等を開催してきました。

また、国際的に注目を集めるアジアの現代美術の最新動向を紹介するため、1999(平成11)年から2014(平成26)年まで、5回にわたって福岡アジア美術トリエンナーレを開催しました。

教育普及については、ワークショップや講演会などの教育プログラム、ボランティアスタッフによる作品解説、アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせなどを通じて、アジアの美術や文化に理解を深める機会を設けています。広報誌「あじびニュース」やホームページ等で、アジア美術の情報を発信しています。

調査研究については、現地調査やそこで収集した貴重な資料を用いて、アジア各国の近現代美術に関する研究を進め、その成果を展覧会や講演会などの形で発表し、アジア美術関係機関・関係者とのネットワークを構築しています。

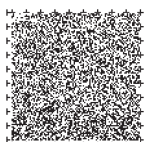
さらに、交流型の美術館として、アジアからアーティスト[※]や研究者を招へいし、作品制作やワークショップ、パフォーマンス、講演会などの活動を通して、地域の人々との美術交流を実施しています。

※アーティスト・イン・レジデンス¹事業は、2022(令和4)年より、アジア以外の海外、国内のアーティストも対象に含め、Artist Cafe Fukuoka(福岡市中央区舞鶴)で実施

(4) これまでのアジア美術館の活動における強みと弱み

これまでのアジア美術館の活動における強みと弱み(現状と課題)を下記のとおり整理しました。今回の魅力向上への取組みを契機に、これらの強みをさらに伸ばし、弱みを克服していく必要があります。

¹ アーティスト・イン・レジデンス : アーティストが一定期間ある土地に滞在し、作品制作等のアーティスト活動を行うことをいいます。

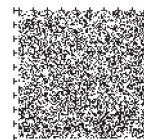


これまでの活動における強みと弱み（数字は2024(令和6)年度時点）

活動	強み	弱み
展示	<ul style="list-style-type: none"> 所蔵品展：年平均9回 小企画展：年平均1回 特別企画展：年平均2～3回 5回の福岡アジア美術トリエンナーレ開催(1999/2002/2005/2009/2014) ●2024年より バーチャル・ミュージアム ² 開設	<ul style="list-style-type: none"> 2014(平成26)年以降、最新のアジア現代美術を紹介する大規模国際展を行っていない アジア美術は、文化的な背景などの知識も踏まえなければ、価値や魅力を感じる事が難しい作品が多く、それらを市民に十分に届け切れていない
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> スクールプログラム 年64回 令和6年度から市内小学校向け対話型鑑賞プログラムを実施 アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ 年108回 	<ul style="list-style-type: none"> 展示と連動した作品鑑賞のためのプログラムが不足している 障がいのある方や高齢者向けのプログラムがない
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査で得た記録写真、資料、図書（約6万点）、情報の蓄積 アジア美術資料室³ウェブサイトでの情報発信（年表、文献、用語等） 	<ul style="list-style-type: none"> 2014(平成26)年以降、広範な現地調査が行えておらず、情報の更新や研究を深めることができていない
作品収集	<ul style="list-style-type: none"> コレクション 約5,700点(近代～現代、大衆美術、民俗美術含む) 他館での「アジ美コレクション展」累積8回 →他館にはない、現代美術だけでなく、近代美術や大衆美術、民俗美術を含んだ幅広いコレクション	<ul style="list-style-type: none"> 近年、十分な作品購入ができておらず、最新の現代美術作品の収集ができていない
美術交流 (レジデンス)	<ul style="list-style-type: none"> 開館以来、アーティスト122人、研究者27人 アーティストによる館内外でのワークショップ 年平均11回 アーティストは滞在最後に成果展実施 →開館当初より交流事業を進め、その実績は他館でも類を見ない	<ul style="list-style-type: none"> 2018(平成30)年以降、研究者を招へいしておらず、研究分野での交流が行えていない

² バーチャル・ミュージアム：ネットワーク上の仮想空間に作られた博物館や美術館をいいます。アジア美術館では、コレクション展の展示空間を3Dカメラで撮影し、その記録を「バーチャル・ミュージアム」としてウェブサイト上で公開しています。

³ アジア美術資料室：アジア近現代美術の理解を深めるための手引きとなる学び(ラーニング)の場として、福岡アジア美術館が蓄積してきた記録・情報・ネットワークを生かして制作・運営しているウェブサイトがあります。



(5) 施設の課題

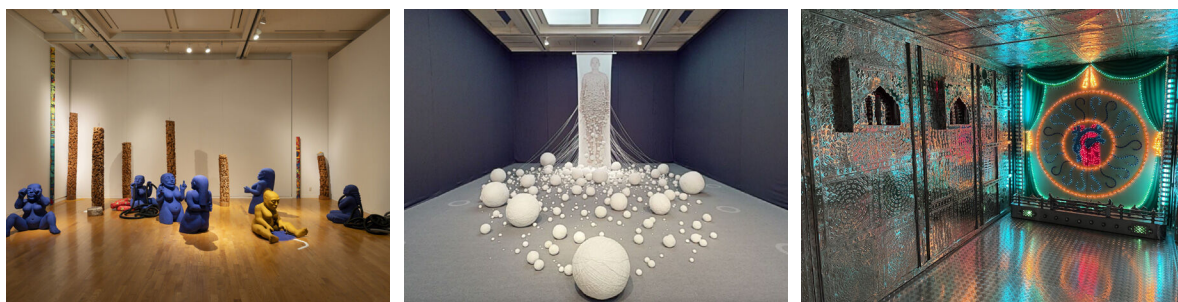
当館の施設は、下記のような課題を有しています。

①設備の老朽化

展示壁、天井、設備等は開館当初(約25年前)のもので構成されており、老朽化が目立つ状況にあります。老朽化により館内の機能が低下しており、来館者にとって館内の雰囲気や体験の質が損なわれ、施設全体としての魅力が低下しています。

② 展示スペース不足

コレクションを十分に活用した魅力的な展示を行うには展示スペースが手狭になっています。インスタレーション⁴や立体などの大型作品や、映像作品の増加に伴い、より広い展示面積が必要とされており、展示方法の多様化も進む中で、作品の魅力を引き出すための空間的余裕が求められています。



作品の大型化

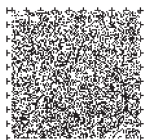
③ 収蔵スペース不足

収蔵スペースもコレクションの増加に伴い不足しており、適切な保存・管理が困難となっています。開館当初は約1,000点であった作品数は2025(令和7)年には約5,700点へと5倍以上に増加しており、特に大型の彫刻作品や映像作品の増加が顕著であり、今後もさらなる対応が求められる状況にあります。

※作品点数の推移：1999(平成11)年 約1,000点 →2025(令和7)年 約5,700点

※主な作品の増加状況：絵画 約700点→約1,400点 彫刻 約80点→約230点 映像 3点→約90点

⁴ インスタレーション：ある特定の空間にオブジェや装置等をおいて、空間全体を作品とする美術表現をいいます。



④ 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない

現在のアジア美術館は、複合ビルの上層階に位置しており、立地は便利ではあるものの、「何かのついでに立ち寄る場所」とは言い難く、市民や観光客にとって、「わざわざ行かなければならない場所」という印象が強く、気軽な気持ちで日常的に訪れる施設とは認識されていません。その要因として、作品鑑賞以外の来館動機につながる過ごし方や価値の提供が不足していることが挙げられ、アジア美術との出会いの機会を作るため、にぎわい・集客を生み出す機能の充実が必要です。

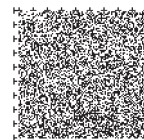
(6) 当館を取り巻く情勢

当館の開館以降も、アジア諸国は著しい経済成長を続け、アートにおいても目覚ましい成長を遂げています。それにより、アジア美術への注目度は高まり、アジア諸国のアーティストやキュレーター⁵が国際的な芸術祭や展覧会で活躍する場面も増え、アジア美術の市場価値も高騰しています。

国内やアジア圏内でも、美術館の社会的なニーズに的確に対応し、展示だけでなく、教育普及プログラムを充実させて、地域とつながることで存在感を示し、また広報・マーケティングを重視し、専門部署をおいて戦略的に行うことで、集客的にも成功をおさめている館が増えており、当館も、これらの取組みを参考に、重要な要素を取り入れていく必要があります。

一方で、当館が収集する、現代美術にはおさまらない大衆美術や民俗美術、また近代美術を含めた幅広いコレクションや継続的なレジデンスは、他の先進的な取組みを行う館でも実施されていない、当館の独自性を示す要素です。今後も強みとして活かしていくことが重要です。

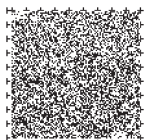
⁵ キュレーター：展覧会やアートプロジェクト等で、企画、構成、アーティストや作品の選定を担う専門職をいいます。



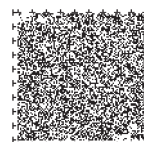
(7) 施設の拡充について

施設の課題解決に向け、展示機能や集客・にぎわい機能等を拡充し、魅力向上を図るためには、現在の博多リバレイン7階・8階の限られたスペースの再編成は困難であり、施設拡充を行う必要があると結論づけました。拡充先については、公有地を優先に、床面積規模を約7,500～9,000㎡程度、展示室の天井高さを約4～5mと想定し、それらが確保できること、都心部に位置する土地であることを前提条件として、複数の土地で評価比較をした結果、地上の公園を活かした象徴的な施設展開、周辺施設と連携した活動の展開が期待できることなどから、「警固公園地下」としました。

参考資料：「拡充先の選定について」



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



第2章 福岡市における文化芸術振興とミュージアム

第1節 福岡市のまちづくりと文化芸術振興

(1) 福岡市のまちづくりと文化芸術振興

① 福岡市基本構想・基本計画

福岡市は、1987(昭和62)年に市が長期的にめざす都市像を示すために策定した『福岡市基本構想』において、「海」と「アジア」を都市像として掲げ、他都市に先駆けてアジアに開かれたまちづくりを進めてきました。

人口減少が大きな問題となっている日本において、福岡市は人口増加率が日本一となるなど成長を続けており、「人と環境と都市活力が高い次元で調和したアジアのリーダー都市」を目指し、下記のような都市像を描いています。こうしたまちづくりに貢献できることが、重要な要素となります。

福岡市基本構想

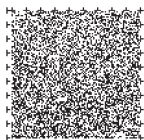
「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」

- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

第10次福岡市基本計画(都市経営の基本戦略)

※2024(令和6)年12月策定

「福岡市は、都市と自然が調和したコンパクトで住みやすい都市という魅力を生かし、国内外から多様な人材が集い、チャレンジする環境を整えることで、生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を実現し、福岡都市圏全体の発展、さらには九州、日本全体を牽引していくとともに、「人と環境と都市活力が高い次元で調和したアジアのリーダー都市」をめざして、時代の先頭に立って挑戦していきます。



② 福岡市文化芸術振興計画

福岡市における文化芸術は、市民生活と都市に根ざしたものであり、都市を構成する大きな要素であるとの認識のもと、2008(平成20)年に「すべての人々にとっての文化芸術、未来に向けての文化芸術」を基本理念とする「福岡市文化芸術振興ビジョン」を策定し、総合的・計画的に文化芸術施策を推進してきました。社会情勢や国の動向、本市文化行政を取り巻く環境の変化等に対応し、次なるステージへ飛躍させるため、2019(令和元)年6月、「福岡市文化芸術振興計画」が策定されました。

「すべての人々にとっての文化芸術、未来に向けての文化芸術」を基本理念に、「文化芸術による、元気で、多彩な人々が集う街を目指して」を基本目標として、市の文化芸術に関する政策・施策の体系が示されています。

福岡市文化芸術振興計画

政策目標1 心豊かに文化芸術を楽しむまちづくり

施策方針1 すべての人を対象とした文化芸術の振興

施策方針2 市民の文化芸術活動の振興

施策方針3 地域の歴史文化等の保存・継承

政策目標2 文化芸術が都市の魅力・価値となるまちづくり

施策方針1 文化芸術を通じた交流・融合による新たな価値の創出

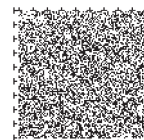
施策方針2 歴史文化等を活かした観光・集客の促進

③ Fukuoka Art Next(FaN)

さらに、福岡市では、2022(令和4)年より、海を通じて世界とつながり、その長いアジアとの交流の歴史の中で、多様な価値観を受け入れながら、創造力や感性を大事にするという気風や土壌が培われてきたことから、暮らしの中にアートが溶け込み、彩りにあふれたまちを目指す「Fukuoka Art Next(FaN)」の取組みを推進しています。

FaNでは、市民がアートに触れる機会を増やし、その価値や魅力を感じてWell-being⁶を向上させるとともに、アーティスト活動を支援することで、世界で活躍する福岡発のアーティストの増加を目指しており、それによって福岡市におけるアートへの関心は高まっています。

⁶ Well-being(ウェルビーイング)：充実や幸福感に近い概念で、身体的、精神的、社会的に良い状態であることをいいます。



(2) 博物館法等の改正による美術館の役割の変化

博物館法では、美術館は、資料の収集・保管、展示、教育普及、調査研究といった活動を一体的に行う施設と定められており、資料を通じて人々の学習活動を支援するとともに、各館ゆかりの美術作品資料の収集を通して、優れた美術作品資料の鑑賞機会を住民に提供してきました。

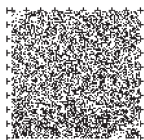
少子高齢化やグローバル化の進展等の社会情勢の変化を踏まえ、2017(平成29)年6月には、文化芸術振興基本法が文化芸術基本法に改正され、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等他分野との有機的な連携が求められることが明記されました。

また、2020(令和2)年4月には、文化振興を起点に、観光振興及び地域活性化の好循環を創出することを目的とする、「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」、いわゆる文化観光推進法が施行され、美術館等の文化施設を中核とした文化観光⁷の推進も図られ始めています。

時代の変遷や社会の要請を受け、2022(令和4)年4月に博物館法が改正され、資料のデジタルアーカイブ⁸化の実施や、多様な主体と連携・協力し、地域の活力の向上に寄与する役割も求められるようになりました。

⁷ 文化観光：文化についての理解を深めることを目的とする観光をいいます。文化振興を観光振興と地域活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出することを目的とします。

⁸ デジタルアーカイブ：博物館・美術館が所蔵する資料や有形・無形の文化財を、高精度かつ再現性の高い電子データとして記録し、長期的に保存・活用する仕組みをいいます。



第2節 福岡市における文化芸術振興とミュージアム

1999(平成11)年に開館したアジア美術館に先立ち、福岡市では、1979(昭和54)年に開館した福岡市美術館、1990(平成2)年に開館した福岡市博物館が中心となり、福岡市民に文化芸術に触れる機会を提供してきました。アジア美術館の開館以降は、福岡市が運営する3つのミュージアムが、それぞれの役割を担いながら、展覧会や教育普及事業、情報発信等において連携を図り、福岡市全体としての文化芸術の振興に寄与してきました。

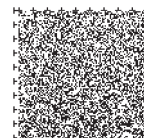
また近年、福岡市は都心部において、規制緩和を活用し、先進的なビルへの建替えを促す、官民連携のまちづくり「天神ビッグバン」「博多コネクティッド」を推進しており、建替えにあわせ、水辺や緑、文化芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられ、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりを進めています。

その天神の中心に位置する警固公園がアジア美術館の拡充先であり、警固公園地下駐車場がその役割を終えた後、美術館として新生することは、この場所が福岡市の文化芸術の顔となることを示しています。

拡充後のアジア美術館を軸に、ミュージアム3館がそれぞれの特性や強みを活かしつつ、相互の連携を継続、強化することにより、美術・歴史資料の収集・保存・展示等を通して、文化芸術に親しむ機会を提供し、より多くの市民に開かれた施設として、3館全体の総合的な魅力向上と効果的な運営を図っていきます。それによって、福岡市のみならず、九州、ひいてはアジアの文化芸術の振興にも貢献していきます。



ミュージアム3館の位置図(福岡市美術館、福岡アジア美術館、福岡市博物館)



第3章 アジア美術館の 魅力向上の基本的な方針

第1節 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針

これまでの内容を踏まえ、アジア美術館の魅力向上の基本的な方針を下記のように取りまとめました。

アジア美術と出会い、その問いかけから、自分と世界を見つめる美術館 交流を通じて、アジア美術の発展と福岡市の都市の魅力向上に貢献する美術館

福岡市は、古来、交流によって発展してきました。海を介してアジアの国々となつながら、多様性を受け入れながら都市として成長し続けてきた歴史があります。

福岡アジア美術館は、歴史的に形成されてきた福岡市のアイデンティティを体現するものとして、1999年に開館しました。アジアの近現代美術を系統的に収集し展示する、世界初、かつ唯一の美術館として、これまで5,000点以上の作品を収集し、様々な展覧会や美術交流を行ってきました。

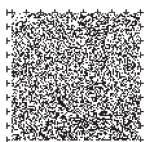
開館から25年が経過し、福岡アジア美術館を取り巻く情勢にも大きな変化が生じています。アジア諸国は大きな発展をとげ、世界においてその存在感は増しており、アジアの躍動とともに、アジア美術もまた世界的に注目を集めています。さらに、AI時代を迎えた今、効率性や利便性が手軽に得られる中で、人生をいかに主体的に生きていくべきかという根源的な問いを見つめ直すものとして、文化芸術の重要性が増しています。

アジアの近現代美術は、それぞれの地域で発展してきた独自の社会や文化が、西洋や日本など外的な影響で大きく変化していき、伝統的価値観と近代的価値観がせめぎあう中で生まれ、そこに生きる人々と、人々が抱える葛藤や社会の矛盾を表現してきました。こうした作品が発する、大小さまざまな「問いかけ」を通じて、自分や世界を見つめ、新たな視点や気づき、他者への理解を共有する場として、福岡アジア美術館を発展させてまいります。

そこで、展示機能などを、天神の中心に位置する警固公園地下に展開し、福岡の新たな顔として、子どもから大人まで、より多くの市民や国内外の観光客が気軽に訪れ、アジア美術と出会い、楽しむ場となることを目指します。さらには、美術館の活動を通じて、アジアのアーティストと市民、美術関係者との交流を促進し、アーティストの成長とアジア美術の発展に一層貢献していきます。

加えて、福岡アジア美術館は、近隣の文化施設や企業とも連携し、地域の文化的魅力の向上に寄与し、アジア美術を通じて、多様性や国際的な視野を育み、市民の誇り(シビックプライド)を醸成します。持続可能なまちづくりに貢献するため、環境に配慮した施設整備を目指します。

福岡アジア美術館は、こうした取組みを通じて、福岡市が目指す「人と環境と都市活力が高い次元で調和したアジアのリーダー都市」の実現に貢献してまいります。



第2節 これからのアジア美術館の方向性

第1節で示したアジア美術館の魅力向上の基本的な方針の実現に向けて、**アジア美術を通じて、アジアの国・地域の歴史や文化、社会的背景への理解を深め、交流を通じて、アジア美術の発展に貢献することができるよう、これからのアジア美術館の4つの方向性を掲げ、その方向性に沿った美術館活動の磨き上げを図ることとします。**

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1. 出会う・気づく | －アジア美術と気軽に会おう場－ |
| 2. 楽しむ・見つめる | －アジア美術を楽しみ、自分や世界を見つめる場－ |
| 3. 伝える・拡げる | －アジア美術の魅力を発信し、発展に貢献する場－ |
| 4. 創る・挑む | －アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場－ |

(1) 出会う・気づく －アジア美術と気軽に会おう場－

子どもから大人まで、さまざまなきっかけで訪れる人々に対して、アジアの多様な美術や文化と出会う場を提供します。

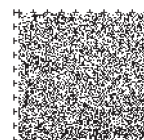
天神の中心に位置する公園に展開し、集客力のある施設としてにぎわいを創出し、より多くの人々にアジア美術の魅力に気づく機会を提供します。

また、地域の安全・安心にも貢献する場となることを目指します。

実現に向けた具体的な取組み(案)	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示室外におけるアートを感じる空間の創出 ● 市民や来街者が気軽に参加できる体験型イベントの充実 など
------------------	--

	主なターゲット像	提供内容イメージ
これからのアジア美術館が提供するもの	市民・来街者	<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅や職場、学校とは別に第三の居場所にもなる場 ● 買い物ついでに、アートに触れる施設 ● 仕事帰りや休憩時間に、アートに触れ、リフレッシュする場、新しい発想を得る場 ● 公園の延長として、偶然にアートに出会える場
	観光客・インバウンド ⁹	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界唯一の美術館として、福岡の文化観光の目的地
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の中で文化的な体験を得る施設 ● 地域の安全・安心に貢献する施設

⁹ インバウンド:海外から日本を訪れる外国人による旅行およびその旅行者をいいます。



(2) 楽しむ・見つめる –アジア美術を楽しみ、自分や世界を見つめる場–

子どもから大人まで、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめ、広い視点や柔軟な発想を得ることができる場を創出します。

特に、未来を担う子どもたちにとっては、楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について知る機会となる場を提供します。

実現に向けた 具体的な取組み (案)	<ul style="list-style-type: none"> • 子ども向け対話型鑑賞の強化 • 高齢者、また障がい者のためのプログラムの充実 など
-----------------------------------	--

	主なターゲット像	提供内容イメージ
これからの アジア美術館が 提供するもの	子ども・親子	<ul style="list-style-type: none"> • 多文化や多様性を体験的に知る場 • 子どもと過ごせるスペースで、アジアの文化に親しむ場
	教育関係者	<ul style="list-style-type: none"> • 新たな学びの手法や教材開発の実施の場
	高齢者・ 障がいのある方	<ul style="list-style-type: none"> • 心の安らぎが得られ、社会参加ができる場

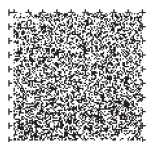
(3) 伝える・広げる –アジア美術の魅力を発信し、発展に貢献する場–

アジア美術と人々をつなぎ、作品が発する問いかけから生じた新たな視点や気づきを共有するため、魅力的な展示を行います。

アジア美術の歩みを物語る作品を幅広く収集し、調査・研究を推進することで、作品の価値を高め、魅力を発信し、アジア美術の発展に貢献していきます。

さらに、国内外の研究者や関連施設との連携を強化し、次世代の人材育成を図っていきます。

周辺の施設や企業等とも連携を進め、地域の回遊性やブランド価値の向上にも貢献します。



実現に向けた 具体的な取組み (案)	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア美術に関する幅広く継続的な収集、調査、研究、展示 ● アジアの学芸員や研究者の招へい、協働企画・研究の推進、国内外の美術館との広範な連携 ● 周辺の施設や企業と連携したイベント等の実施 など
--------------------------	--

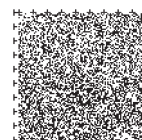
	主なターゲット像	提供内容イメージ
これからの アジア美術館が 提供するもの	研究者・ 大学・研究機関	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア美術に関する貴重な研究資源が集まり、活用できる研究拠点
	企業・NPO 団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の事業者 ⇒連携することで文化を発信できるパートナー ● 協賛企業 ⇒社会貢献活動やブランド価値向上のパートナー ● 観光・ホテル業界 ⇒集客につながる文化観光施設 ● NPO 団体 ⇒アートを通じた社会貢献の場
	美術関係者	<ul style="list-style-type: none"> ● アジアのアーティストや表現と出会う場

(4) 創る・挑む –アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場–

アジアのアーティストの作品の収集や展覧会の開催、アーティストが滞在して制作も行うアーティスト・イン・レジデンス等の充実を通じて、アーティストの成長を支援するとともに、新たな表現や世界への挑戦を支えます。

実現に向けた 具体的な取組み (案)	<ul style="list-style-type: none"> ● アーティスト・イン・レジデンス事業の充実 ● アジアのアーティストと福岡のアーティストや市民との交流を促進 ● アジアのアーティストの個展やグループ展の企画・実施 など
--------------------------	--

	主なターゲット像	提供内容イメージ
これからの アジア美術館が 提供するもの	アジアの アーティスト	<ul style="list-style-type: none"> ● アジアの美術や文化から、刺激や影響を受ける場 ● 世界に向けた発信と交流の拠点



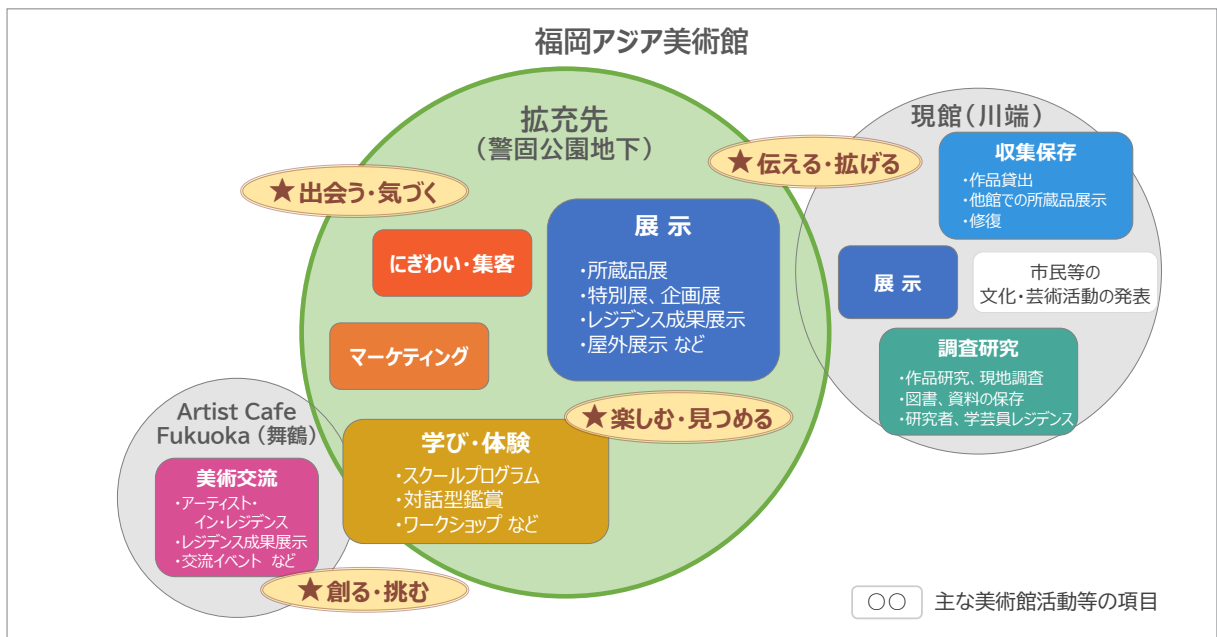
第4章 アジア美術館が担う機能と役割

第1節 アジア美術館の機能分担について

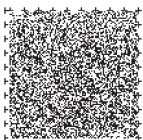
アジア美術館は、拡充先(警固公園地下)、現館(川端)、Artist Cafe Fukuoka(ACF)(舞鶴)の3拠点を連動させ、相乗効果を発揮するとともに、効果的な運営を図ります。



3拠点の役割分担イメージ



3拠点での主な美術館活動等とこれからのアジア美術館の方向性(★)の分担イメージ
※それぞれの位置付けや役割に応じ、来館者にとってわかりやすい名称を検討していきます。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

○拡充先(警固公園地下)

天神の中心に位置する警固公園地下に展開し、アジア美術館の活動の中心として、アジア美術を見せる新たな発信拠点となることを目指します。

美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として、心地良く過ごせる文化的な空間を創出し、天神の文化的魅力を一層高め、また、多彩な体験価値を昼夜提供することで、多様な来館動機を創出し、より多くの市民や国内外の観光客が気軽に訪れ、アジア美術と出会い、気づく場となることを目指します。

さらに、アジア美術を楽しみ、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめる場を目指します。

【導入する主な機能】

- 展示機能

アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保する。

- 学び・体験機能

楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について知る機会となる場を提供する。

- にぎわい・集客機能

展示機能と一体的に展開し、多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくる。

○現館(川端)

博多リバレインの7階・8階に位置する現館では、これまでの活動の蓄積や現在の施設環境を活かし、収蔵、調査研究機能を拡充するとともに、拡充先での展示内容を支え、補完することで、アジア美術の魅力を広く伝え、拡げていきます。

既存の展示室等を活用し、市民をはじめ、美術活動者の文化発信ができる場を目指します。

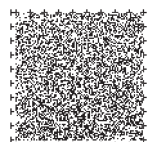
【拡充、継続する主な機能】

- 展示機能

既存の展示室を活かし、アジア近現代の美術作品の歴史的・文化的な背景にフォーカスした展示等を行うとともに、来館者のアジア美術への理解を深めることで、拡充先での展示内容を補完し、相乗効果を得られるような展示を行う。

- 収蔵機能

既存の空調システムや高いセキュリティを備えた設備を活用しながら、収蔵スペースを拡張し、コレクションを適切に保存・管理する。



- 調査研究機能

アジア美術の学術的評価の向上のため、収蔵作品の調査研究を進める機材やスペースを整備するなど、研究環境の充実を図る。

アジア美術の研究に活用するため、これまで蓄積してきた調査資料等をより適切に保管・整理する。

- 市民等の文化芸術活動の発表

市民をはじめ、美術活動者の文化・芸術活動の発表の場としてこれまで定着している利用のニーズが高いスペースについて、引き続き、確保する。

○ Artist Cafe Fukuoka(ACF)(舞鶴)

舞鶴公園に位置するACFでは、アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場として、アーティスト・イン・レジデンス事業等の活動や支援を行います。

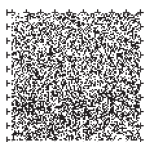
第2節 アクセシビリティ

アジア美術館は、年齢、言語、障がいの有無にかかわらず、また、国内外から訪れる人々、福岡に居住するアジア出身の人々にとっても、誰もが安心して美術館を利用できる環境を整備し、アクセシビリティ¹⁰の更なる向上に努めます。

<アクセシビリティ向上に関するもの>

- 触覚等を活用した鑑賞が可能な作品の設置、および環境の整備。
音声ガイドややさしい日本語でのガイド等、情報提供手段の整備・拡充。

¹⁰ アクセシビリティ:利用者が目的の場所や情報、サービスに円滑に到達・利用しやすい程度をいいます。



第3節 拡充後のアジア美術館の活動

第3章で示した「アジア美術館の魅力向上の基本的な方針」の実現に向けて、本章第1節のアジア美術館の機能分担の考え方を踏まえ、拡充した後のアジア美術館においては下記の活動を行います。

- (1) 展示
- (2) 学び・体験
- (3) 調査研究
- (4) 収集保存
- (5) 美術交流(レジデンス)
- (6) にぎわい・集客
- (7) 市民の文化・芸術活動の場

(1) 展示

アジア美術館は、収集されたコレクションを市民に広く紹介し、アジア近現代美術への興味や親しみを増すような展示環境を整備します。

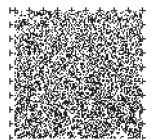
拡充先においては、アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保します。

現館においては、例えば、アジア近現代の美術作品の歴史的・文化的な背景にフォーカスした、来館者のアジア美術への理解を深めることで、拡充先での展示内容を補完し、相乗効果を得られるような展示を行うことを検討します。

また、関連図書やアーカイブ展示を通して、展覧会開催期間に限らず、いつでもアジア近現代美術に関する情報をひもとき、過去の展覧会等の内容を追体験できるよう、物理的に限定されない展示へのアクセス手段を検討します。

<コレクション展示に関するもの>

- 体系的に収集された作品を紹介できるストーリー性を有するコレクション展の開催。
- アジア現代美術の傑作を中心とし、アジア美術館の多様なコレクションを魅力的に発信するコレクション展の開催。
- コレクション展を通して所蔵作品に親しみを深める図解ガイド・音声ガイドの作成。



<企画展示等に関するもの>

- アジア近現代作品の文化的な背景や調査研究の成果を踏まえた自主企画展の開催。
- アジアの各地域の美術の展開や動向、重要な作家など、アジアの近代美術史に光をあてる大小様々な規模の展覧会の開催。
- アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催。
- 民俗美術や大衆美術など、近代において美術の枠に含まれなかった領域を再評価する展覧会。
- 福岡市美術館など市内ミュージアムの所蔵品を活用した、多角的なアジア美術の展示。
- 他館や他組織等との連携・協力による共催展の開催。
- アーティストを招へいして実施するアーティスト・イン・レジデンスの成果を示す展覧会。

<図書に関するもの>

- アジアの近現代美術を中心とする美術図書の閲覧サービスの提供。
- 展示に関連する図書・アーカイブ特集の実施。

(2) 学び・体験

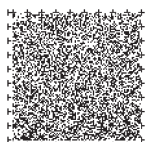
アジア美術館は、誰もが楽しみながらアジア美術を体験し、新たな視点や価値観に触れ、多文化や多様性について知る機会を提供します。作品鑑賞やワークショップ、レクチャー等、子ども・親子を対象としたものから、大人・高齢者を対象としたものまで様々なプログラムを実施します。また、障がいの有無にかかわらず、アジア美術を楽しむことができるプログラムを提供します。加えて、小・中学校、高校、大学等教育機関と連携し、アジア美術に関わる教材やプログラムの開発を行います。

<来館者の体験に関するもの>

- 市民や観光で訪れた来街者がアジア美術との出会いを促す仕掛けづくり。
- 親子で気軽に参加できるワークショップやアジアの絵本や紙芝居の読み聞かせなど、幼少期からアジア美術に親しむためのプログラムの実施。
- 高齢者、障がい者の特性にあわせたプログラムの充実。
- 市内学校の児童・生徒を対象とする対話型アート鑑賞。
- 来館者が創作を体験できるワークショップの実施。

<アジア美術を伝える人材育成に関するもの>

- スクールプログラム・職場体験の受入。
- 博物館実習・インターンの受入。



(3) 調査研究

アジア美術館は、収集したコレクションにとどまらず、アジアにおけるアジア近現代美術の動向や新進作家の調査等を通して、アジア近現代美術と社会・人々との関わりについて新たな視点を提供します。

また、アジア美術の学術的評価の向上のため、収蔵作品の調査研究を進める機材やスペースを整備し研究環境の充実を図るとともに、アジア美術の研究者や学芸員の滞在研究を支援します。さらに、アジア美術の研究に活用するため、これまで蓄積してきた調査資料等をより適切に保管・整理します。

<調査・研究に関するもの>

- アジア近現代の美術に関する専門的な調査・研究。
- アジア美術の研究者や学芸員の招へいや、国内外の美術館との連携に基づくアジア近現代美術の調査・共同研究。
- アジア全域での新進作家の調査・情報収集。
- 所蔵品に関する目録・図録の作成。
- アジア美術に関するアーカイブの構築、活用、公開。

<調査・研究の還元に関するもの>

- 企画展示や講演会等による調査・研究成果の発信。
- アジア美術に関する研究紀要の創刊。
- アジア美術に関する学会誌や専門書籍等への執筆。

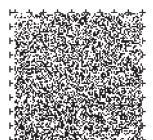
(4) 収集保存

アジア美術館は、従来の「美術」の枠にとらわれない、アジア美術の独自性や固有の美意識を示す作品を収集し、新たなアジア美術の価値の創造を目指すとともに、良質なアジア近現代美術の作品資料を体系的に収集し、魅力あるコレクションを構築します。

また、収集したコレクションを継承するため、最新の保存科学の知見を取り入れながら、将来にわたってコレクションを安全に保存する環境を整備します。

<収集に関するもの>

- アジア近現代の美術作品の系統的な収集。
- アジアの同時代作家の傾向を伝える2000年代以降の作品の収集。



<保存に関するもの>

- 平面・立体などの作品の素材特性や材料に応じた適切な温湿度管理。
- 所蔵品の魅力を伝えるためのデジタル化。
- 所蔵品を次世代に継承するために適切な修復。

(5) 美術交流(レジデンス)

アジア美術館は、アジアからアーティストや研究者を招へいし、福岡での作品制作やワークショップ、パフォーマンス、調査研究、講演会などの活動を通して、市民との美術交流を実施します。こうした美術をきっかけとした交流を通じてアーティスト同士、またアーティストと市民、地域や内外の研究者や専門家との相互協力的なネットワークの広がりを作っていきます。

<招へい等に関するもの>

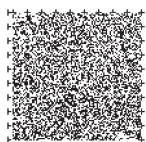
- アジアをはじめ、国内外で活躍するアーティストの招へい・受入。
- アジアの近現代美術研究者・専門家の招へい・受入。
- レジデンス事業の成果を示す展覧会や過去のレジデンスを振り返る展覧会の企画・開催。

<アーティストの成長と交流の支援に関するもの>

- アーティストの作品制作の支援、滞在成果を示す展覧会の開催。
- アーティストと市民との交流を促すイベントの企画・実施。
- 福岡におけるアートの新たな可能性を提示するイベントの開催。

(6) にぎわい・集客

アジア美術館は、展示機能と一体的ににぎわい・集客を図る取組みを展開することで、多様な来館動機を創出し、子どもから大人、国内外から訪れる人々、また福岡に居住するアジア出身の人々に、アジア美術との出会いの機会を提供します。また、国際的な人の往来や観光需要の高まりを捉え、国内外の来訪者を呼び込み、アジア美術の魅力、コレクションを世界に発信します。



<アジア美術を核とした人々の交流に関するもの>

- MICE¹¹やインバウンド等、国内外の来訪者を呼び込む取組みの実施。
- 市内企業や教育機関等と協働したプログラムの開発・実施。
- アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施。
- 在福アジア人にとっても第三の居場所となるような場の提供。
- アジア美術との出会いを思い出として持ち帰り、興味を深めるきっかけとなるようなグッズの開発とミュージアムショップでの販売。

<展示・公開にとどまらない場の活用に関するもの>

- 多様な属性の来街者が立ち寄りやすい早朝・夜間開館。
- 1日を通して様々な過ごし方ができる場の提供。
- ユニークベニュー¹²として、様々なイベント等に活用できる空間の創出。

(7) 市民の文化・芸術活動の場

美術館活動をサポートするボランティアを育成するほか、市民の文化・芸術活動の場を提供します。

<市民の活動支援に関するもの>

- 美術活動者の文化・芸術活動の発表の場の提供。
- アジア美術館の活動を支援するボランティアの養成。

¹¹ MICE(マイス)：企業などの会議(Meeting)、企業などが行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などが行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字をとったものです。

¹² ユニークベニュー：歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、本来の用途とは異なるニーズに応じて特別に会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場をいいます。

